

もとあらかわ

流域面積	208.86 (81.14) km ²	裸書きは支川を含んだ面積、()書きは支川を含まない面積
流路延長	60.650 km	
合流河川	中川	
現況河床勾配	1/3500 ~ 1/1000	
関係市町村	熊谷市、行田市、川里町、吹上町、鴻巣市、菖蒲町、白岡町、蓮田市、桶川市、岩槻市、越谷市、(南河原村、騎西町、北本市)	()書きは支川の関係市町村

流域および河川の概要

- 元荒川は、埼玉県熊谷市にその源を発し、途中忍川、赤堀川、野通川、星川を合流し、中川の国の管理区間右岸に合流する一級河川である。
- 流域は、JR高崎線、東武伊勢崎線、国道17号線、国道122号線及び国道125号線等の交通網の発達に伴い、下流域より開発が進んできた地区である。
- 元荒川の中流部には、周辺を豊かな自然に恵まれた末田須賀堰があり、散策、釣りなど人々のレクリエーションの場として利用されるなど、良好な環境が保たれている。
- また、元荒川源流部(熊谷市)には、環境省のレッドデータブックにおいて絶滅危惧種に指定されているムサシトミヨが生息している。

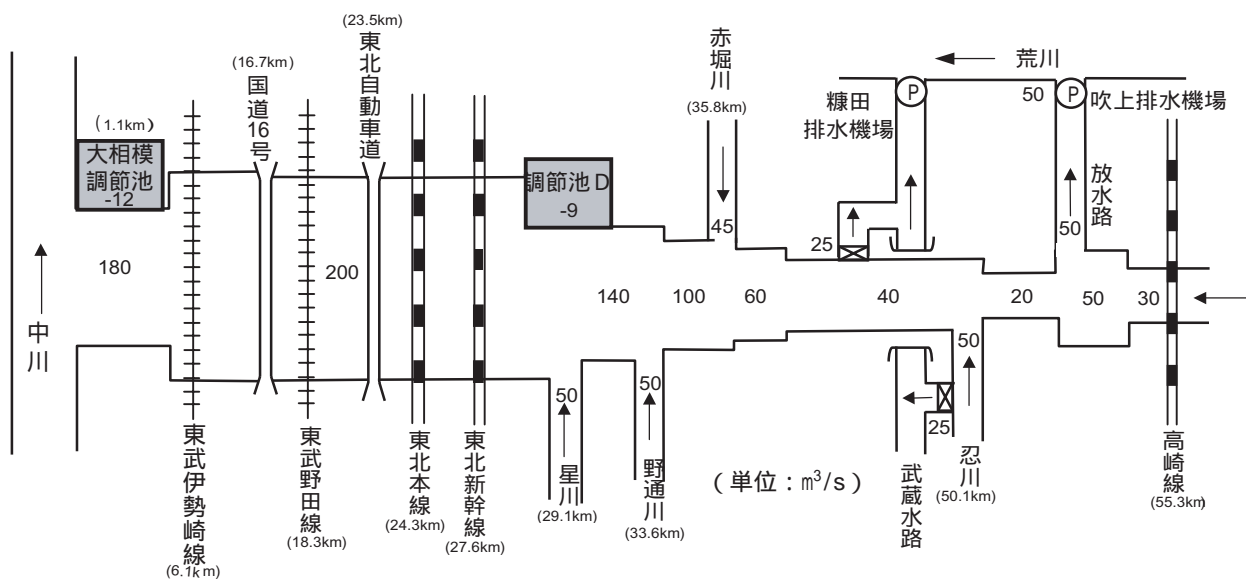
治水計画

- 元荒川では、整備目標流量を安全に流下させるため、下記の区間において星川合流点(29.10 km)までは流下能力が不足する区間で築堤を主とした整備(一部引堤区間で高水敷掘削有り)を実施し、放水路分派点より上流区間では、河床を下げるともに、築堤により河積の拡大を図る。
 - <整備予定区間> (越谷市大字増森地先1.85km) ~ (越谷市大字増森地先1.90 km) ... A (しらこぼと橋下流3.80 km) ~ (上流端 60.65km) ... B
- また、河道のピーク流量の低減を目的として、以下の施設を整備する。
 - <整備予定施設> (大相模調節池) ... C (調節池) ... D (放水路) ... E

整備上の留意点

- 河床掘削においては、既存の淵・みお筋を極力活かした整備を行うよう努めるとともに、元荒川の源流部には環境省のレッドデータブックにおいて絶滅危惧種に指定されているムサシトミヨが生息しているので、整備にあたっては十分配慮する。
- 改修にあたっては、動植物相に富んだ河川の特性を生かし、動植物の生息環境及び生育環境に配慮し、多自然護岸など自然にやさしい水辺づくりに努める。また、周辺環境と調和し、良好な自然環境を現状で有している区域については、ワンドなどの整備を含めた、生物の移動回廊としての機能を保全に努める。
- 元荒川の水辺には埼玉県のレッドデータブックに記載されているキタミソウの生育がみられる地域があるので、整備にあたっては十分配慮する。
- 調節池の整備にあたっては、動植物の生息状況を把握し、必要に応じて現地表土の利用、回避・移植などの対策に努める。
- 落差工の設置にあたっては、魚類等の移動を妨げない構造とするよう努める。

流量配分図



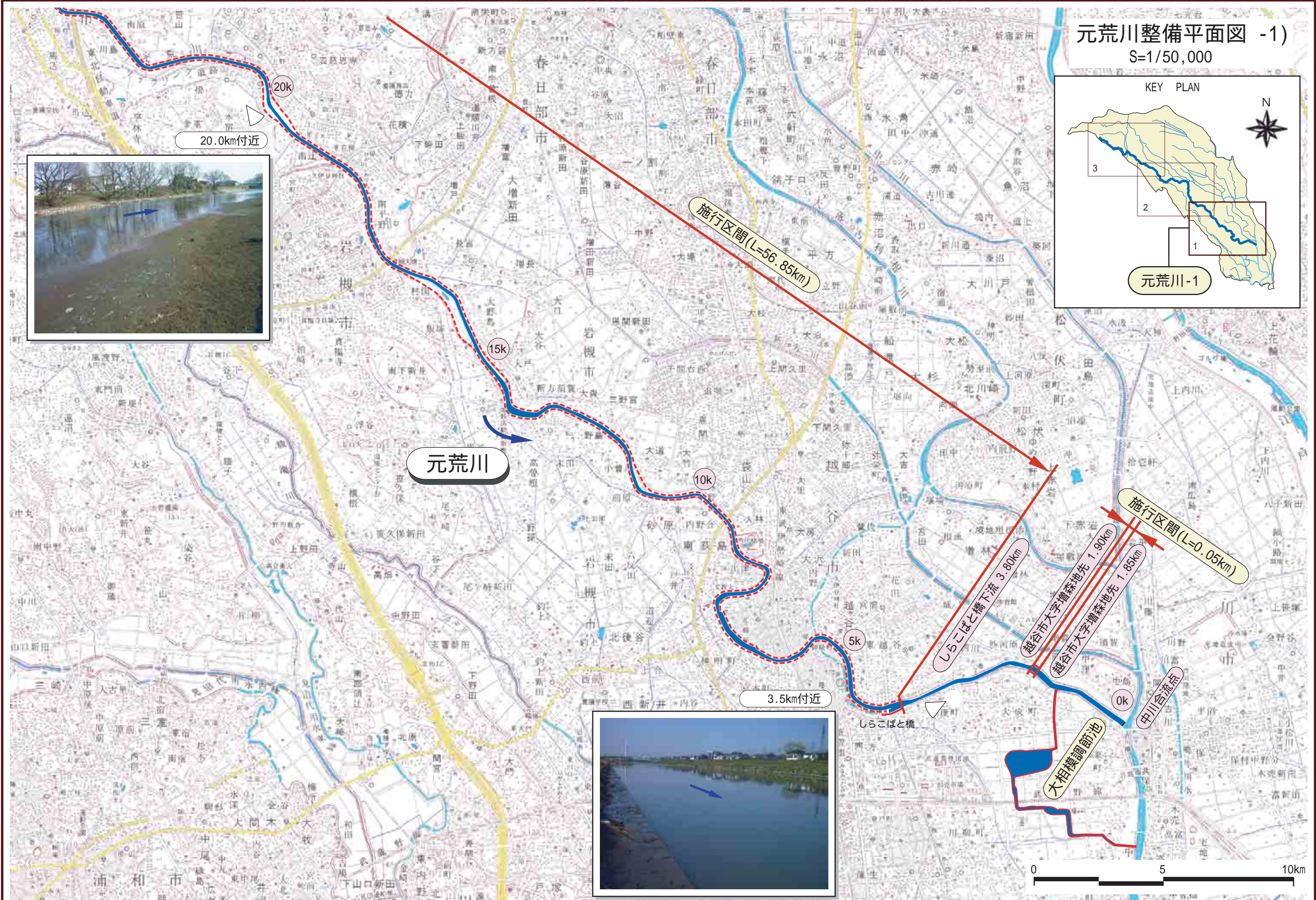
元荒川5km 付近



元荒川45km 付近

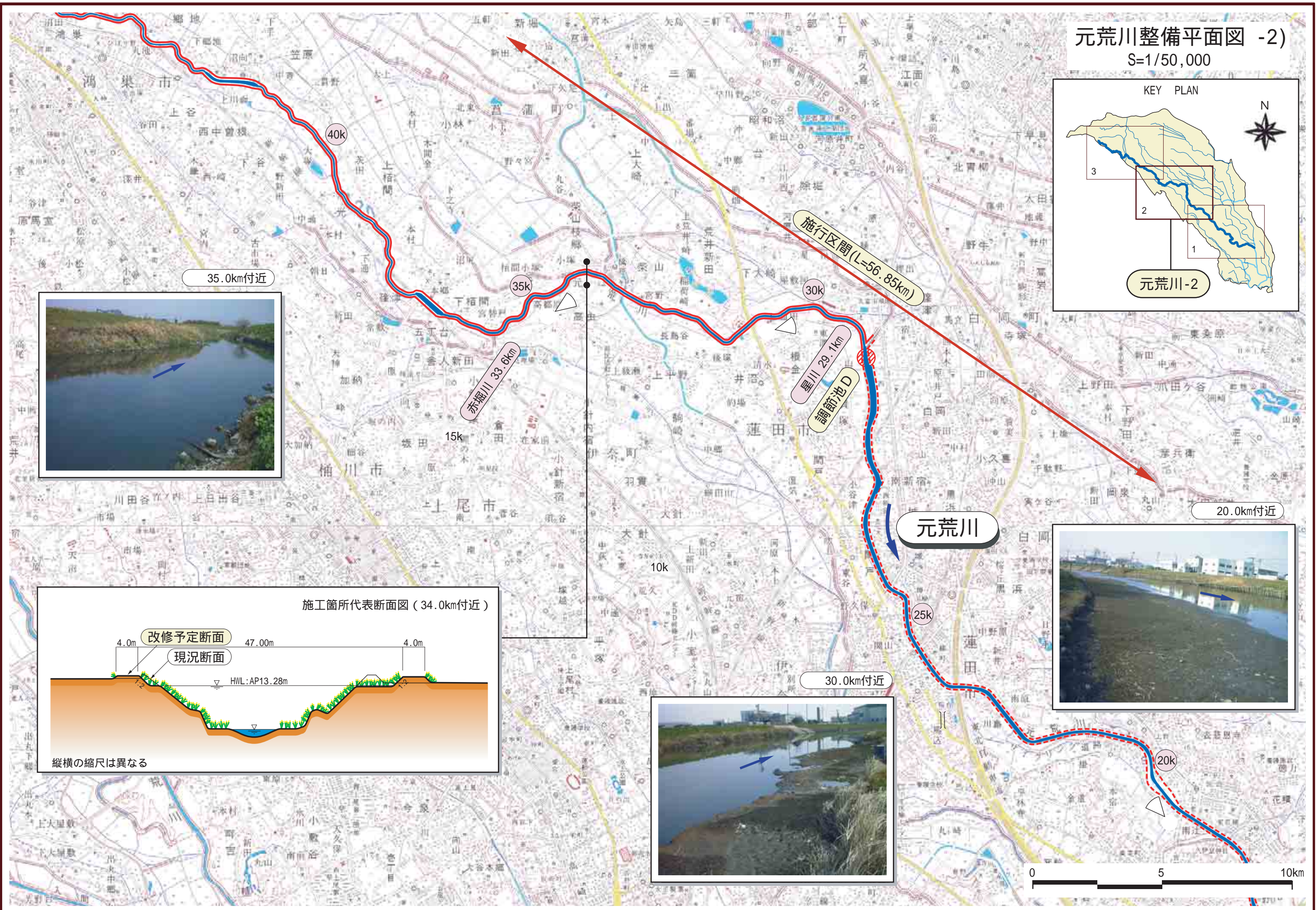


元荒川整備平面図 -1)
S=1/50,000

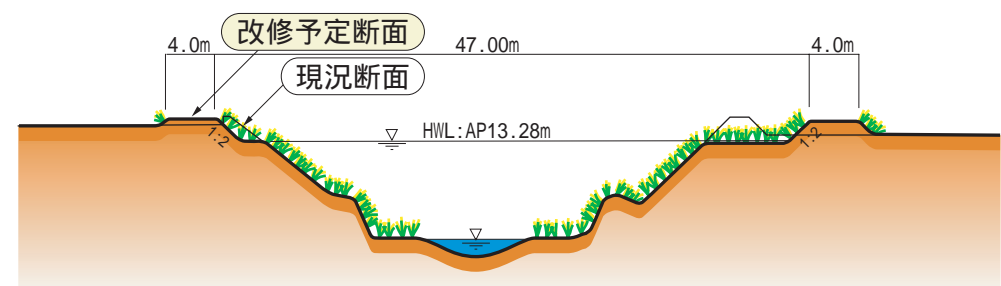


元荒川整備平面図 -2)

S=1/50,000

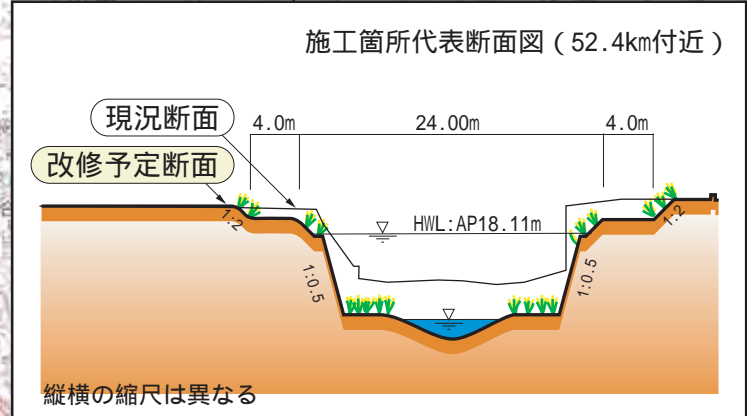
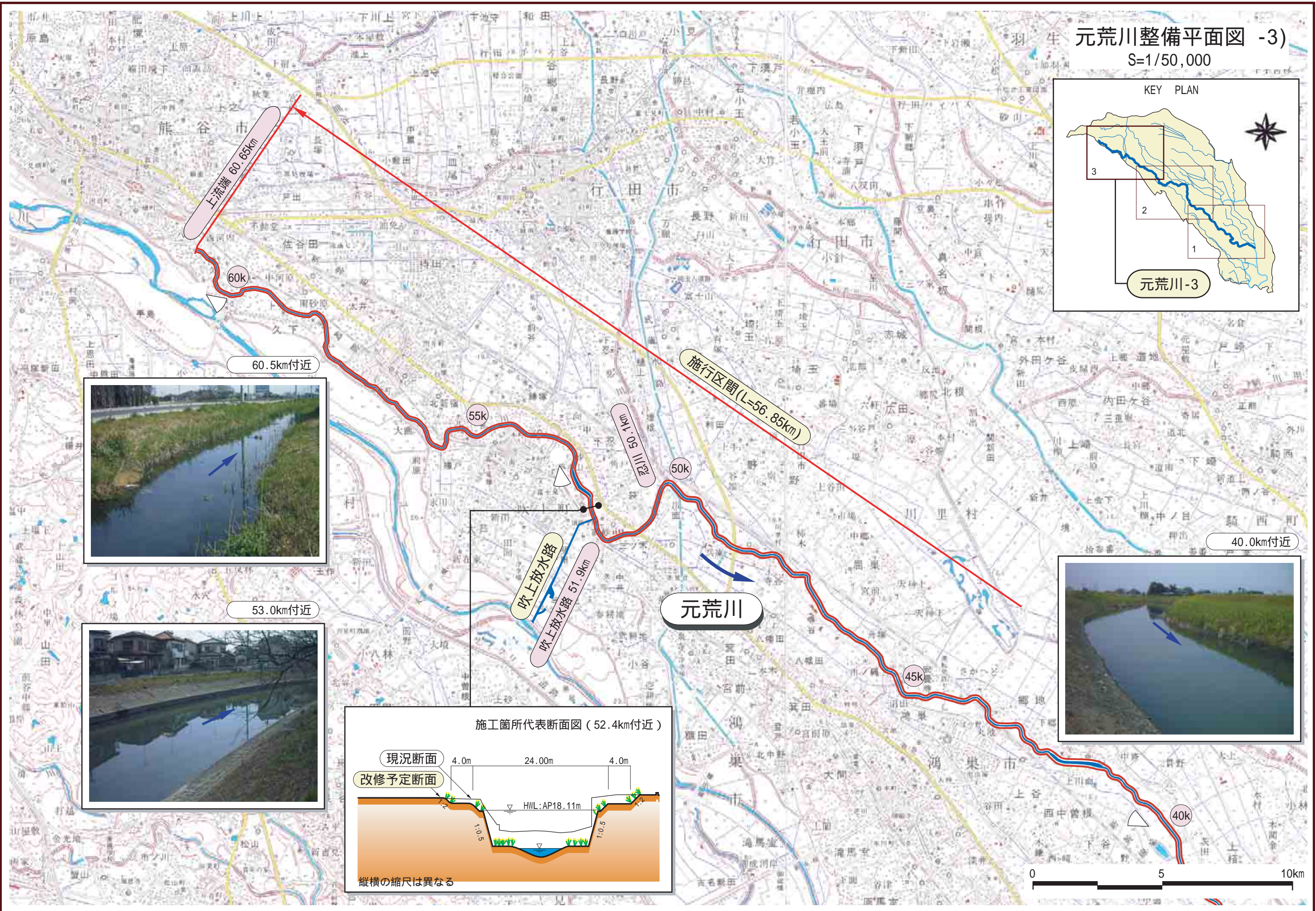


施工箇所代表断面図 (34.0km付近)

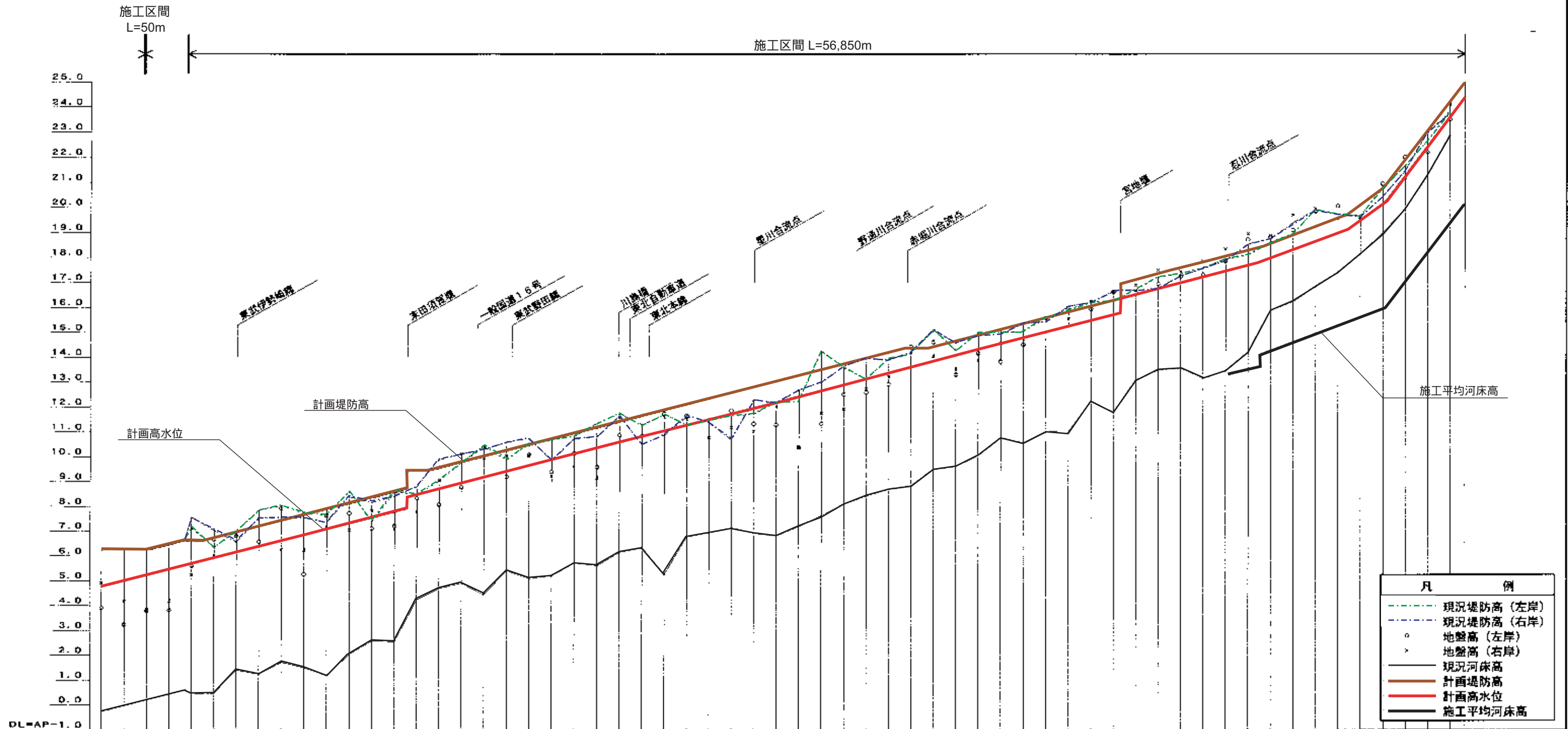


元荒川整備平面図 -3)

S=1/50,000



元荒川計画縦断面図



距離 距離	計			
	堤防高	高水位	施工平均 河床高	水面勾配
0.000k	5.26	4.76	-0.25	1/4,300
3.700k	6.61		0.61	
4.560k	6.61	5.83		1/4,300
5.000k	6.73			
10.000k	7.89	7.09		1/3,000
13.584k	8.71	7.91		
14.444k	(8.40)	(8.40)		1/1,500
15.000k	9.40	8.73		
20.000k	10.69	9.39		1/850
25.000k	11.86	11.06		
30.000k	13.02	12.22		1/4,300
35.000k	14.16	13.38		
35.760k	14.38			1/3,000
36.711k	14.38			
40.000k	15.14	14.54		1/1,500
48.000k	16.31	15.71		
50.120k	(16.99)	(16.99)		1/850
50.120k	18.10	17.50	13.90	
51.657k	18.43	17.83	13.83	1/3,000
53.337k			(14.13)	
53.337k			14.74	1/1,500
55.000k	20.86	20.26	15.28	
55.403k	24.22	23.62	19.98	1/850
57.143k	24.99	24.39	19.13	
60.000k			20.12	1/4,300
60.500k			20.12	

ほしかわ

流域面積 32.72 km²
 流路延長 33.080 km
 合流河川 元荒川
 現況河床勾配 1/3,000 ~ 1/1,500
 関係市町村 熊谷市、行田市、南河原村

流域および河川の概要

- ・星川は、埼玉県熊谷市にその源を發し、途中青木堀、江川落を合流し、元荒川29.0 km付近の左岸に合流する一級河川である。
- ・星川は、見沼代用水路合流点（24.4 km）より上流部の上星川と、下流部の見沼代用水路との兼用区間（十六間堰まで）及び十六間堰下流の星川で構成されており、兼用区間及び十六間堰下流は流域を持っていない。
- ・星川の水辺には、環境省のレッドデータブックにおいて絶滅危惧種に指定されているキタミソウの生育がみられる。

治水計画

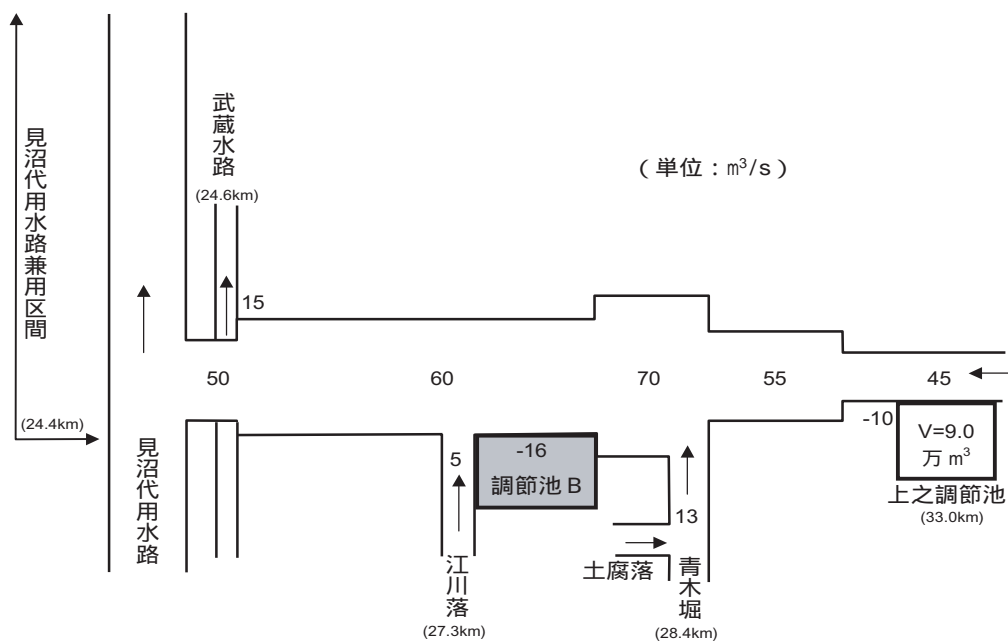
- ・既往改修工事として、元荒川合流点（0.0 km）から十六間堰（6.8 km）の星川の区間と、十六間堰（6.8 km）から見沼代用水路合流点（24.4 km）の見沼代用水路との兼用区間が50 m³/s 断面で完成している。一方、見沼代用水路合流点（24.4 km）から一級起点（33.08 km）の上星川は未改修の状態であり、この上星川の区間は総合治水対策特定河川事業区間となっている。
- ・そのため、星川では、下記の区間において、整備目標流量を安全に流下させるため、現況の河道法線を基本として、河床を下げるるとともに、河道の拡幅及び築堤により河積の拡大を図る。
 <整備予定区間>（見沼代用水路合流点24.40 km）～（上流端33.08 km）…………… A
- ・また、河道のピーク流量の低減を目的として、以下の施設を整備する。
 <整備予定施設>（調節池）…………… B



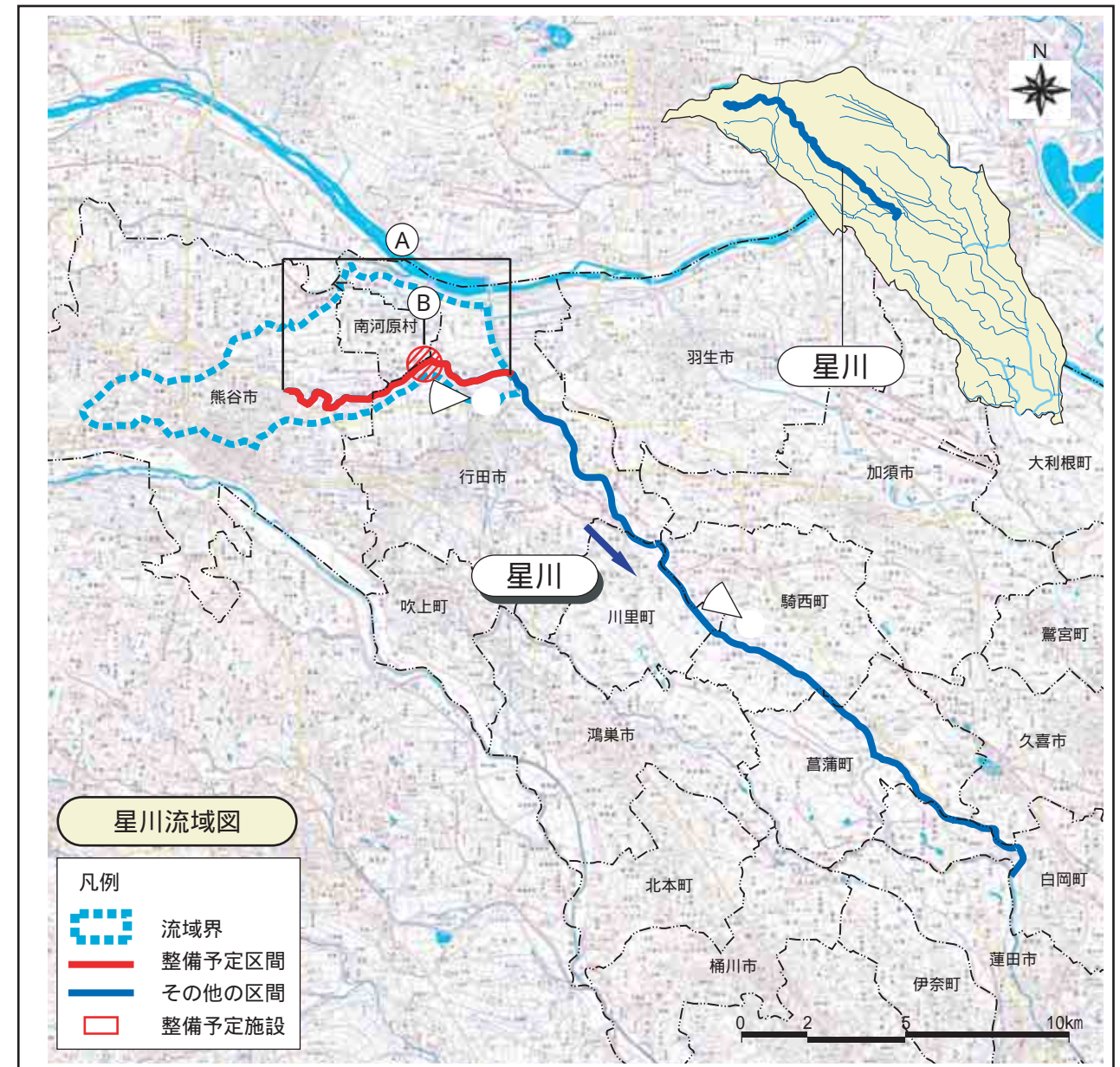
整備上の留意点

- ・護岸整備にあたっては、水辺に生物が生息しやすい木材や石などの自然素材を利用するなど、自然にやさしい水辺づくりに努める。
- ・河床掘削においては、既存の淵・みお筋を極力活かした整備を行うよう努める。
- ・星川の水辺には環境省のレッドデータブックにおいて絶滅危惧種に指定されているキタミソウの生育がみられる地域があるので、整備に当たっては十分配慮する。
- ・調節池の整備にあたっては、動植物の生息状況を把握し、必要に応じて現地表土の利用、回避・移植などの対策に努める。

流量配分図



星川・整備計画概要



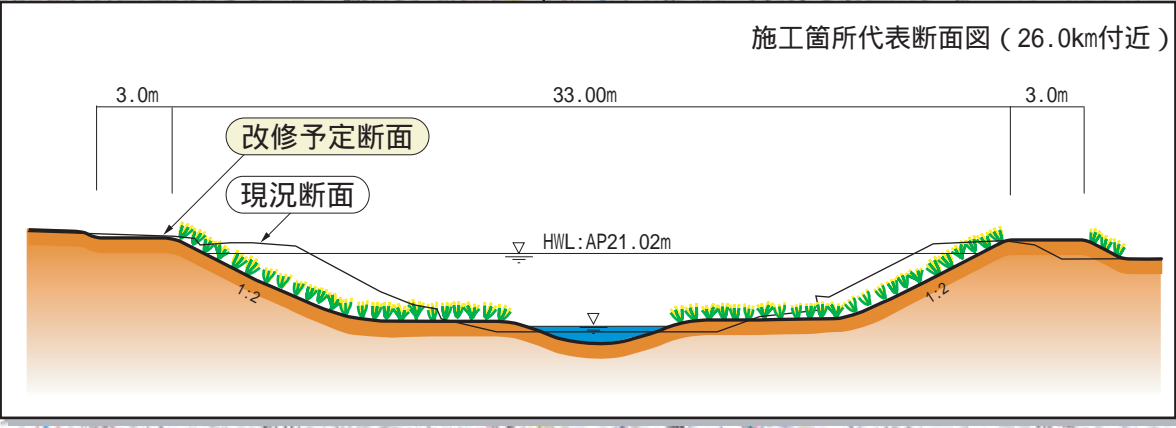
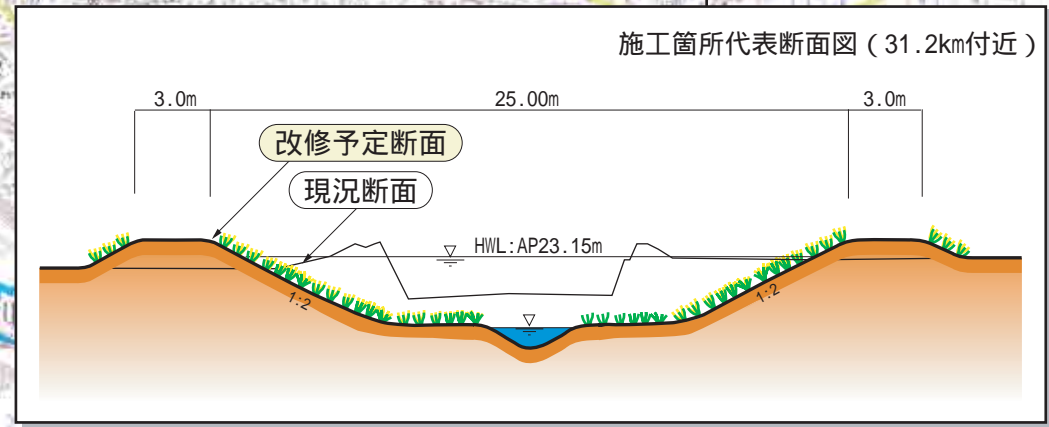
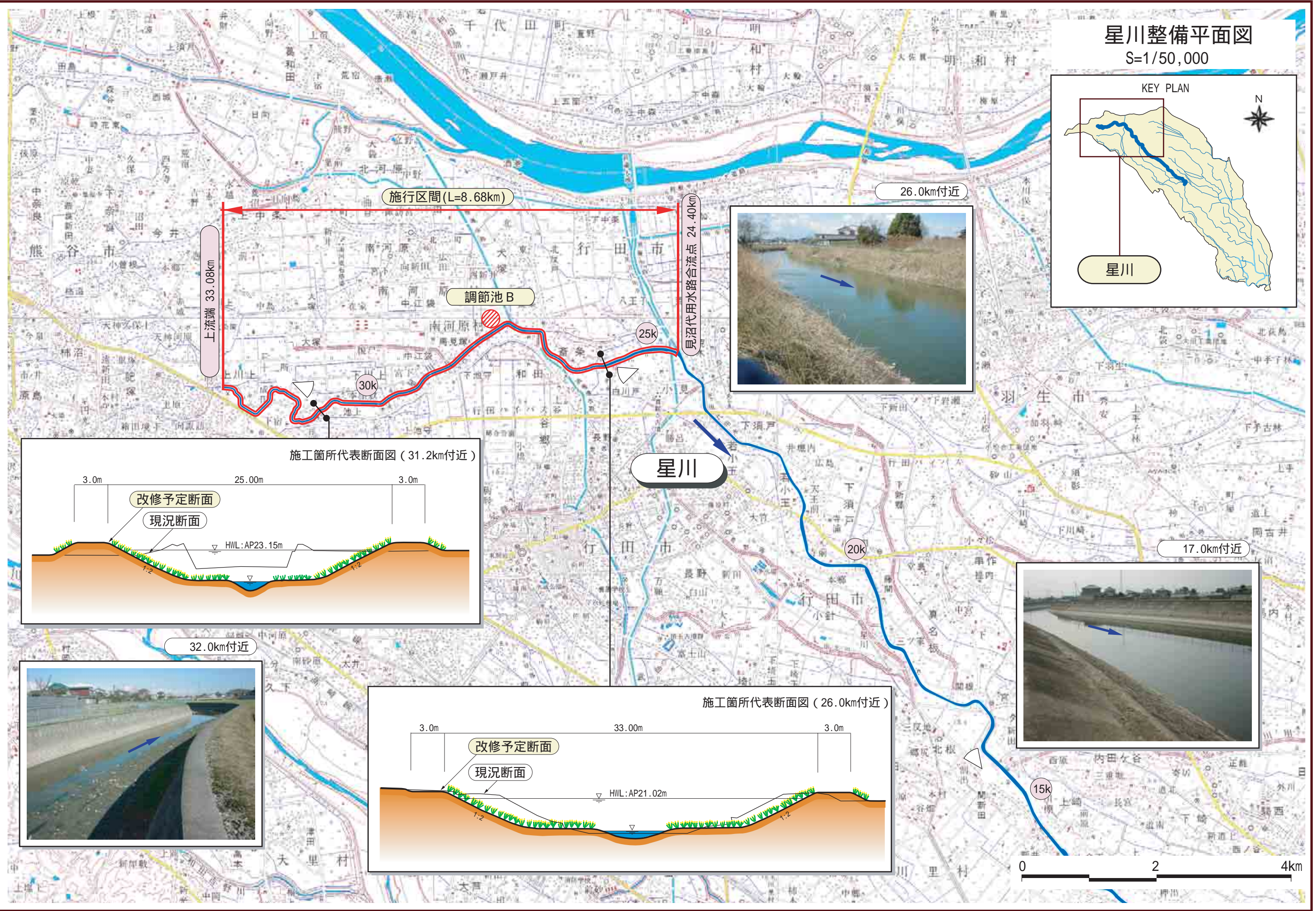
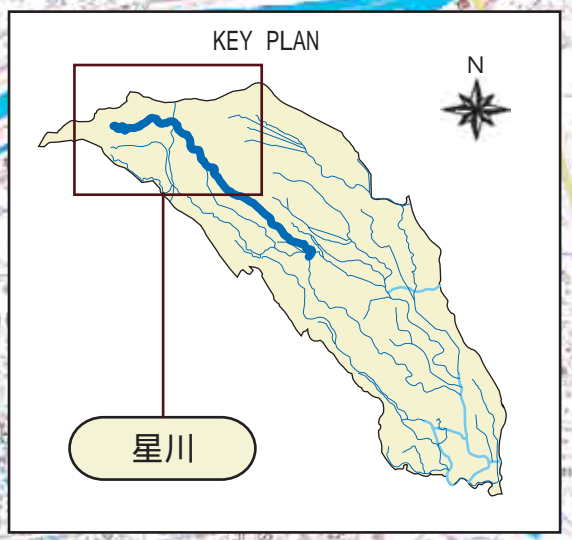
星川12km 付近



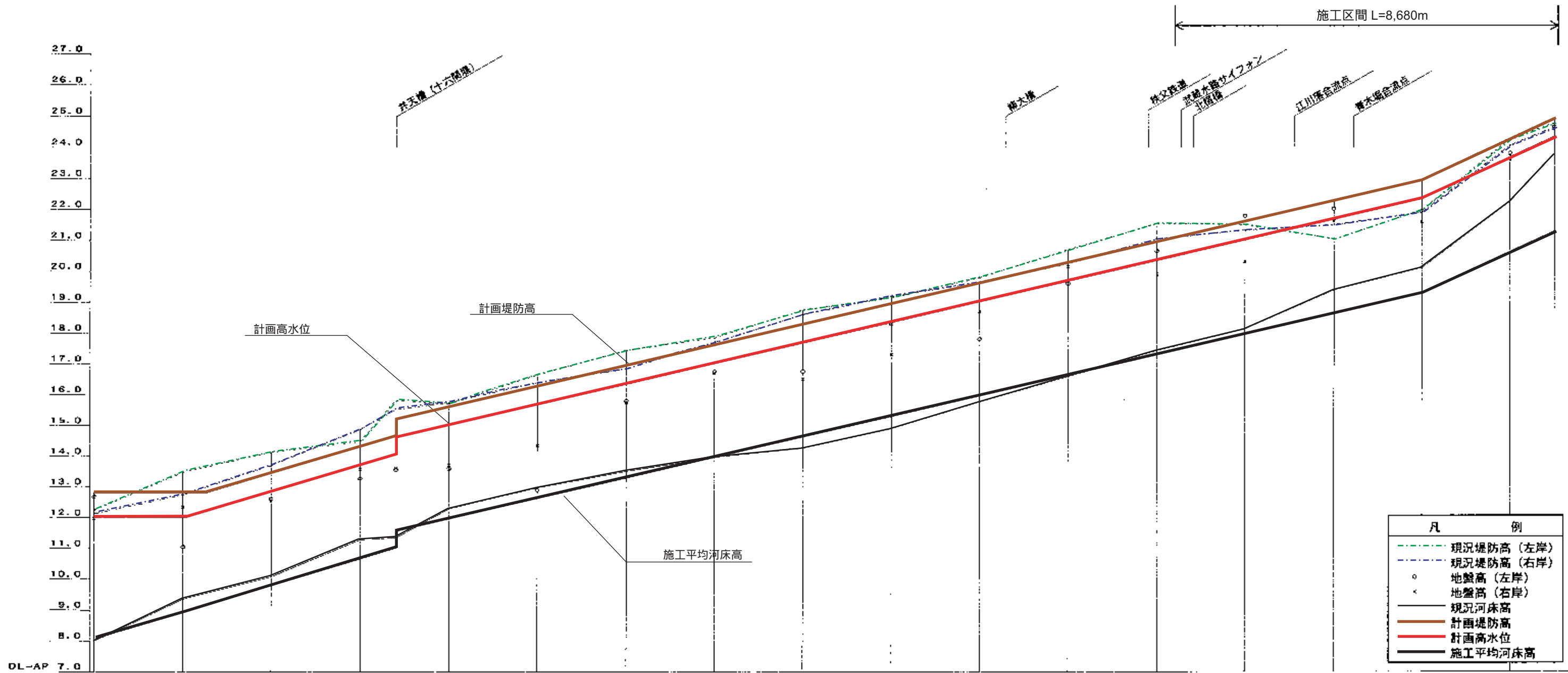
星川25km 付近



星川整備平面図
S=1/50,000



星川計画縦断面図



追加 距離	水面勾配				河床勾配																		
	Level	1/2,300			1/3,000			1/1,500															
0.000k	12.01	12.81	12.81	12.81	12.81	13.45	14.32	14.67	15.62	16.29	16.95	17.62	18.29	18.95	19.62	20.29	20.95	21.62	22.29	22.95	24.29	24.95	
2.000k	12.81	12.81	12.81	13.45	14.32	14.67	15.62	16.29	16.95	17.62	18.29	18.95	19.62	20.29	20.95	21.62	22.29	22.95	24.29	24.95			
4.000k	12.85	13.72	14.07 (14.62)	15.02	15.69	16.35	17.02	17.69	18.35	19.02	19.69	20.35	21.02	21.69	22.35	23.69	24.35						
6.000k	11.07 (11.57)	11.97	12.64	13.30	13.97	14.64	15.30	15.97	16.64	17.30	17.97	18.64	19.30	20.64	21.30	20.64	21.30						
8.000k																							
10.000k																							
12.000k																							
14.000k																							
16.000k																							
18.000k																							
20.000k																							
22.000k																							
24.000k																							
26.000k																							
28.000k																							
30.000k																							
32.000k																							
33.000k																							

やどおりがわ

野通川・整備計画概要

流域面積 54.54 km²
 流路延長 13.770 km
 合流河川 元荒川
 現況河床勾配 1/3,400
 関係市町村 行田市、羽生市、騎西町、川里町、鴻巣市、菖蒲町、白岡町

流域および河川の概要

- ・野通川は、埼玉県行田市にその源を發し、途中長野落、関根落を合流し、元荒川33.5km付近の左岸に合流する一級河川である。
- ・流域は約70%が水田・畑地で他は農村型集落が大半であるが、下流部の農村型の傾向と比較して上流部の行田市・羽生市付近では、工業団地等の都市化傾向が見られる。
- ・また、流域内にはさきたま古墳群・県企業局行田浄水場・清掃工場・ゴルフ場等の施設が存在する。

治水計画

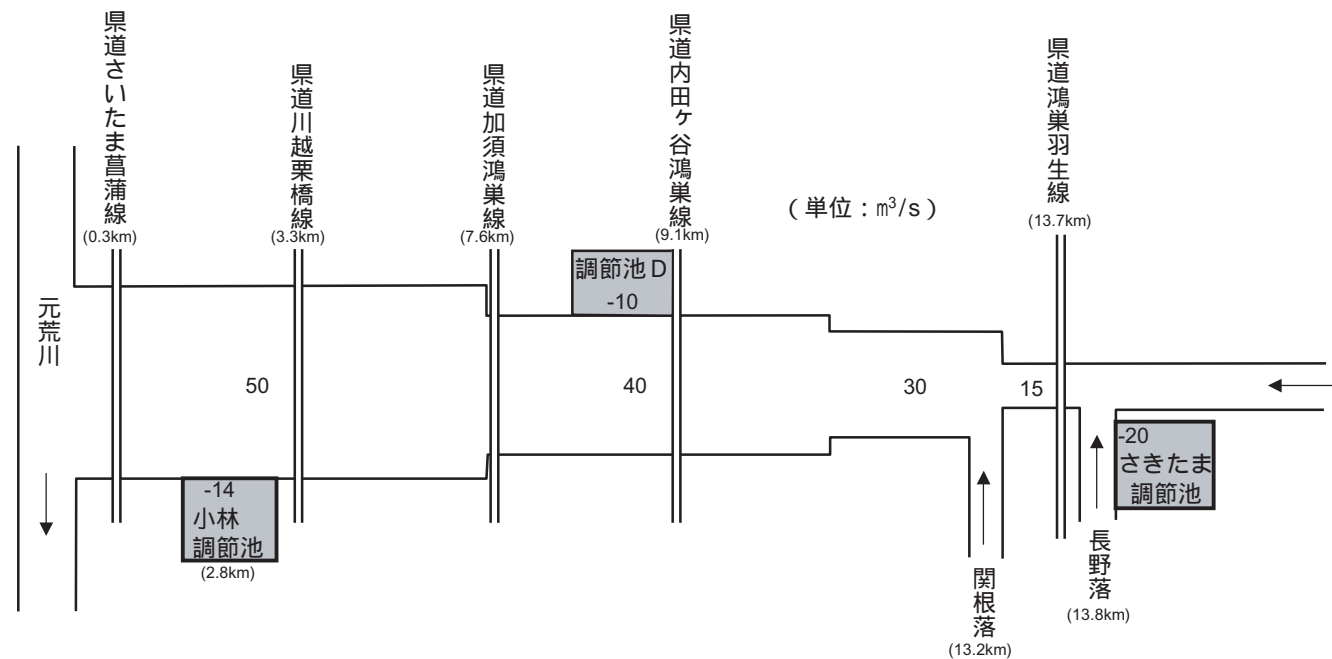
- ・野通川では、整備目標流量を安全に流下させるため、下記の区間において、現況の河道法線を基本として、河床を下げるとともに、河道の拡幅及び築堤により河積の拡大を図る。
 <整備予定区間> (元荒川合流点0.00km) ~ (上流端13.77km) A
- ・また、河道のピーク流量の低減を目的として、以下の施設を整備する。
 <整備予定施設> (小林調節池) B
 (さきたま調節池) C
 (調節池) D



整備上の留意点

- ・築堤に伴う護岸整備にあたっては、周辺に広がる田園地帯の景観との調和、動植物の生息・生育環境に配慮し、自然にやさしい水辺づくりに努める。
- ・河床掘削においては、既存の淵・みお筋を極力活かした整備を行うよう努める。
- ・調節池の整備にあたっては、動植物の生息状況を把握し、必要に応じて現地表土の利用、回避・移植などの対策に努める。
- ・落差工の設置にあたっては、魚類等の移動を妨げない構造とするよう努める。

流量配分図



野通川3km 付近

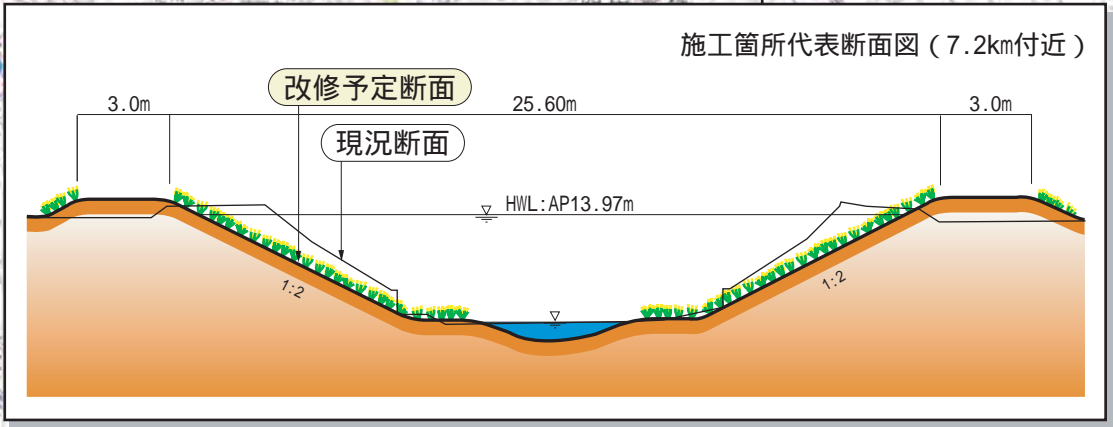
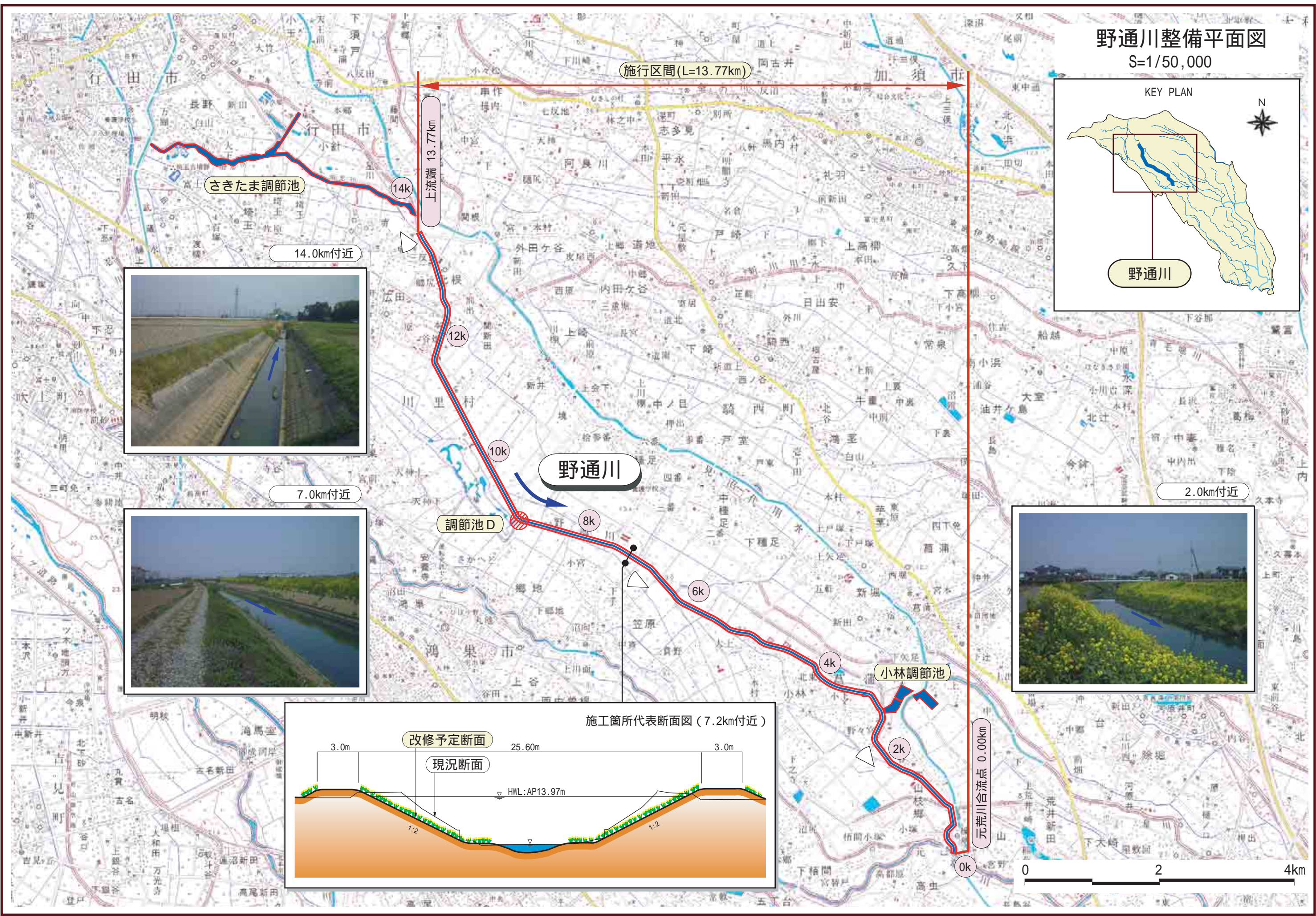
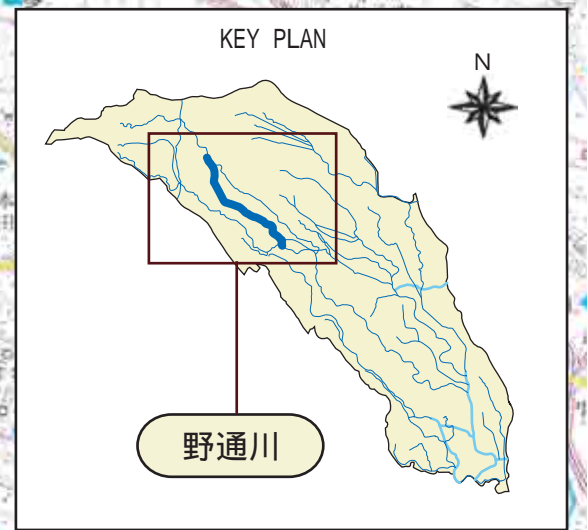


野通川11km 付近



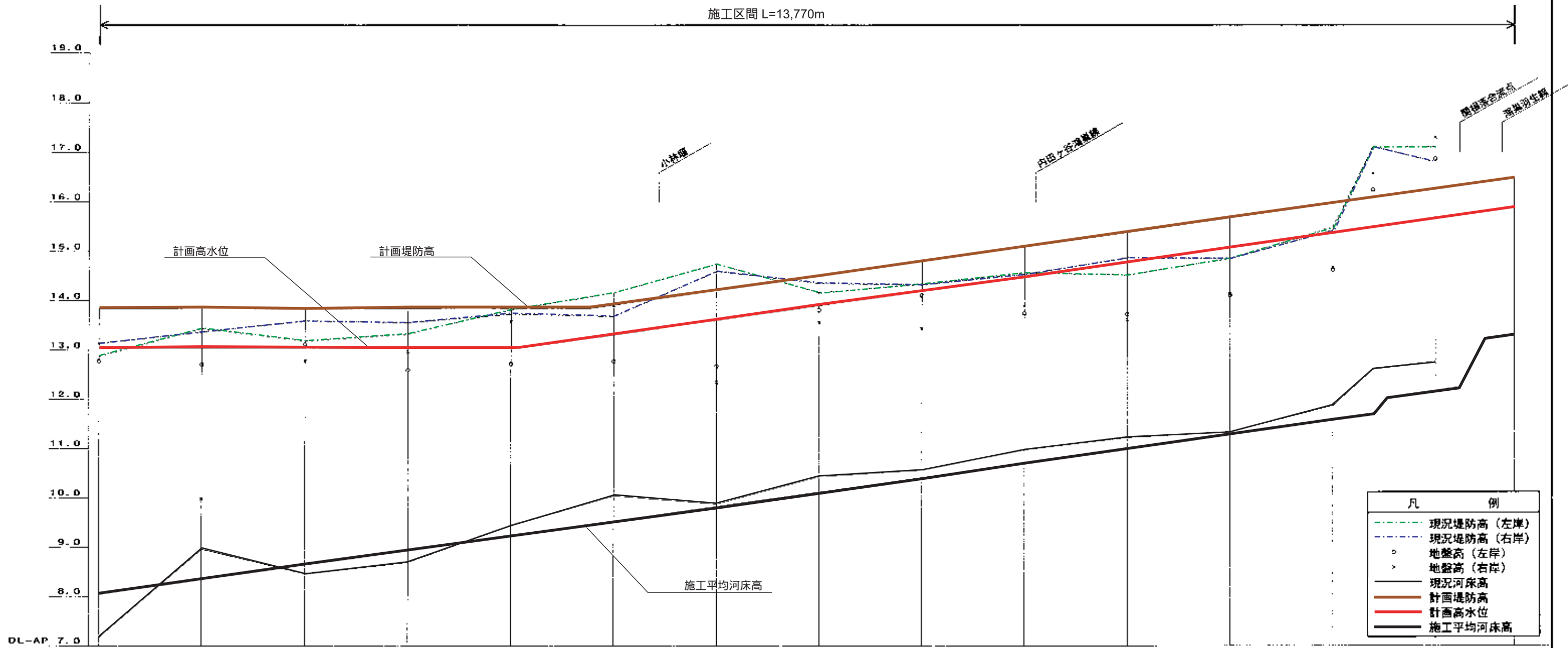
野通川整備平面図

S=1/50,000



野通川縦断図

施工区間 L=13,770m



凡 例	
---○---	現況堤防高 (左岸)
---×---	現況堤防高 (右岸)
○	地盤高 (左岸)
×	地盤高 (右岸)
—	現況河床高
—	計画堤防高
—	計画高水位
—	施工平均河床高

追加距離	計				西																		
	施工平均河床高	高水位	堤防高	河床勾配	水面勾配	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	12.390k	12.525k	13	13.240k	13.483k	13.770k
0.000k	8.06	13.06	13.86	1/3,400	1/3,400																		
1.000k	8.35	13.06	13.86																				
2.000k	8.64	13.06	13.86																				
3.000k	8.94	13.06	13.86																				
4.000k 4.000k	9.23	13.06 13.06	13.86																				
4.760k			13.86																				
5.000k	9.53	13.33	13.93																				
6.000k	9.82	13.62	14.22																				
7.000k	10.11	13.91	14.51																				
8.000k	10.41	14.21	14.81																				
9.000k	10.70	14.50	15.10																				
10.000k	11.00	14.80	15.40																				
11.000k	11.29	15.09	15.69																				
12.000k	11.58	15.38	15.98																				
12.390k	11.70																						
12.525k	12.04																						
13.000k	12.18	15.68	16.28																				
13.240k	12.25																						
13.483k	13.22																						
13.770k	13.31	15.91	16.51																				

あかほりがわ

流域面積 15.47 km²
 流路延長 3.970 km
 合流河川 元荒川
 現況河床勾配 1/2,000
 関係市町村 鴻巣市、北本市、桶川市

流域および河川の概要

- 赤堀川は、埼玉県の北本市と鴻巣市の行政界付近にその源を發し、途中高野戸川を合流し、元荒川 35.9 km 付近の右岸に合流する一級河川である。
- 流域は、かつては北本市及び鴻巣市の市街地を除けば、ほとんど水田地帯であったが、昭和 61 年以降赤堀川右岸堤内地において桶川市における大規模な開発や北本市でも大規模な開発が進められており、流域内の土地利用形態は大きく変化してきている。

治水計画

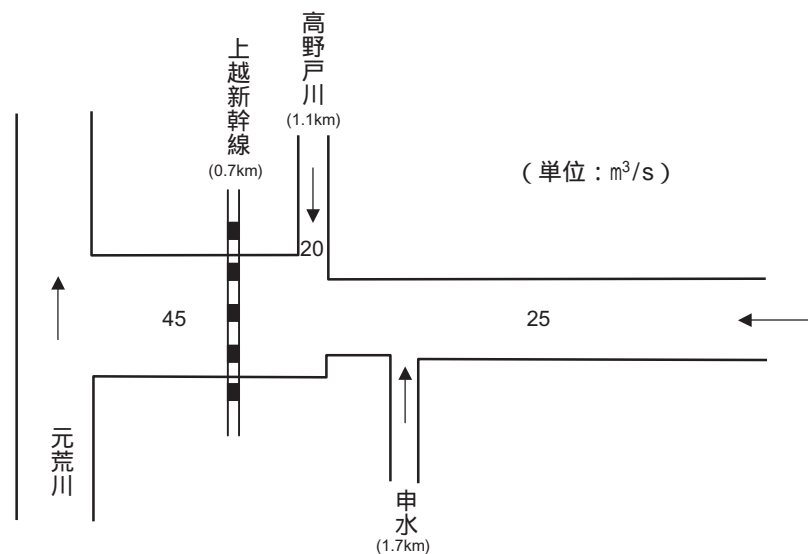
- 赤堀川では、元荒川合流点から一級終点の下記区間において、整備目標流量を安全に流下させるため現況の河道法線を基本として、河床を下げるとともに河道の拡幅及び築堤により河積の拡大を図る。
 < 整備予定区間 > (元荒川合流点 0.00 km) ~ (上流端 3.97 km) A



整備上の留意点

- 護岸整備にあたっては、水辺に生物が生息しやすい木材や石などの自然素材を利用するなど、自然にやさしい水辺づくりに努める。
- 河床掘削においては、既存の淵・みお筋を極力活かした整備を行うよう努める。

流量配分図



赤堀川・整備計画概要

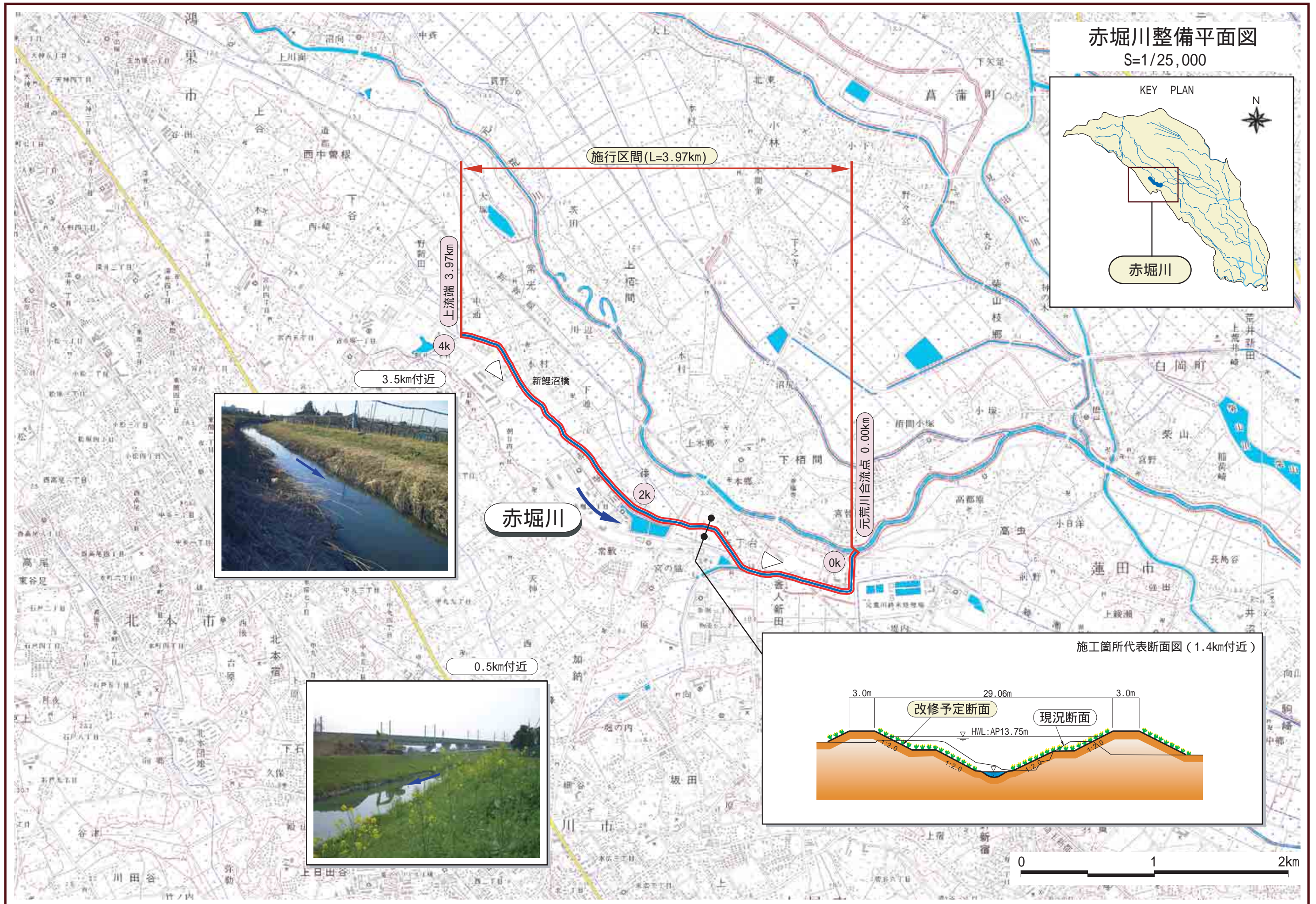


赤堀川1km 付近



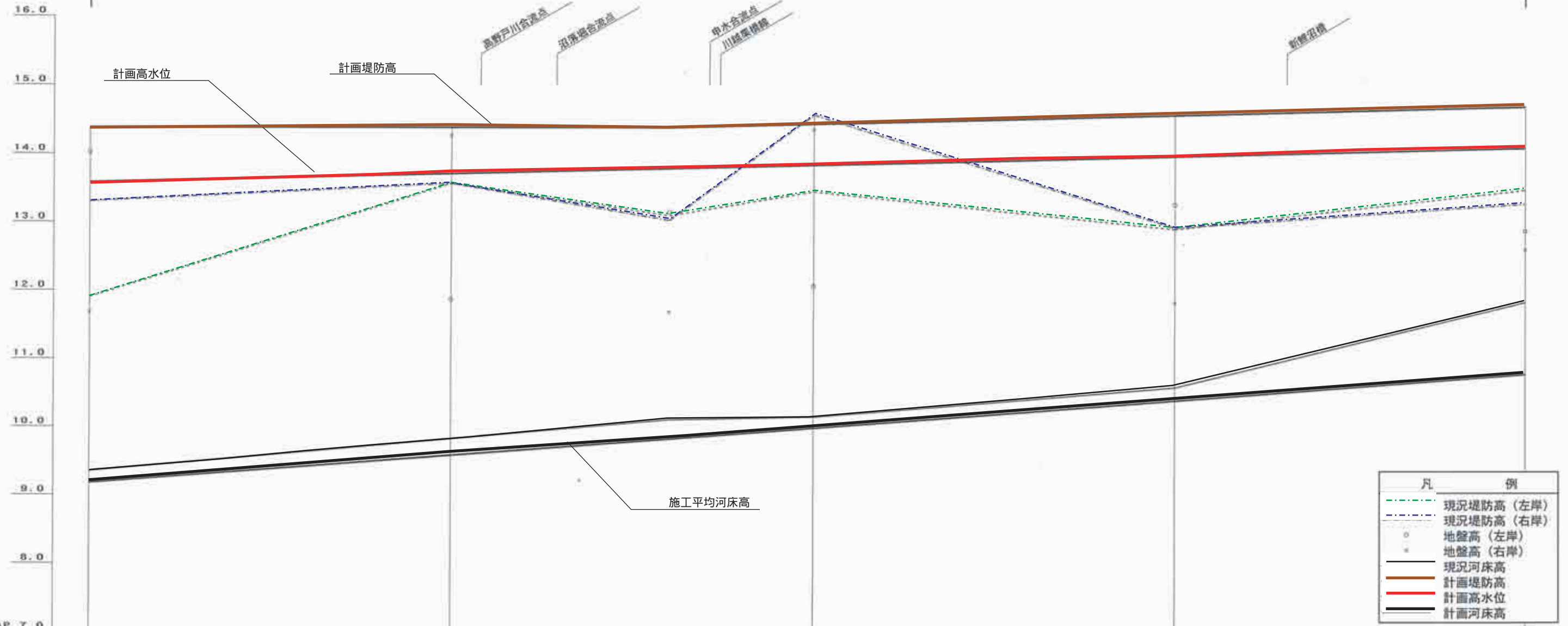
赤堀川2km 付近





赤堀川計画縦断面図

施工区間 L=3,970m



凡 例	
---	現況堤防高 (左岸)
---	現況堤防高 (右岸)
○	地盤高 (左岸)
●	地盤高 (右岸)
—	現況河床高
—	計画堤防高
—	計画高水位
—	計画河床高

測点 距離	計 画			
	河床高	高水位	堤防高	河床 勾配
0.000k	9.15	13.58	14.38	
1.000k	9.58	13.70	14.38	
1.600k	9.82	13.78	14.38	
2.000k	9.98	13.83	14.43	1/8,000
3.000k	10.38	13.95	14.55	
3.970k	10.77	14.07	14.87	1/2,500

おしかわ

忍川・整備計画概要

流域面積 23.74 km²
 流路延長 11.520 km
 合流河川 元荒川
 現況河床勾配 1/2,200
 関係市町村 熊谷市、行田市、吹上町

流域および河川の概要

- ・忍川は、埼玉県熊谷市にその源を發し、途中酒巻導水路を合流し、元荒川50.1 km付近の左岸に合流する一級河川である。
- ・流域は、熊谷扇伏地からの伏流水や、古くからの水田地帯としての用水が数多く存在し、また、近年交通網の整備と共に宅地化や工場等の進出もあり、しばしば浸水被害が生じている。

治水計画

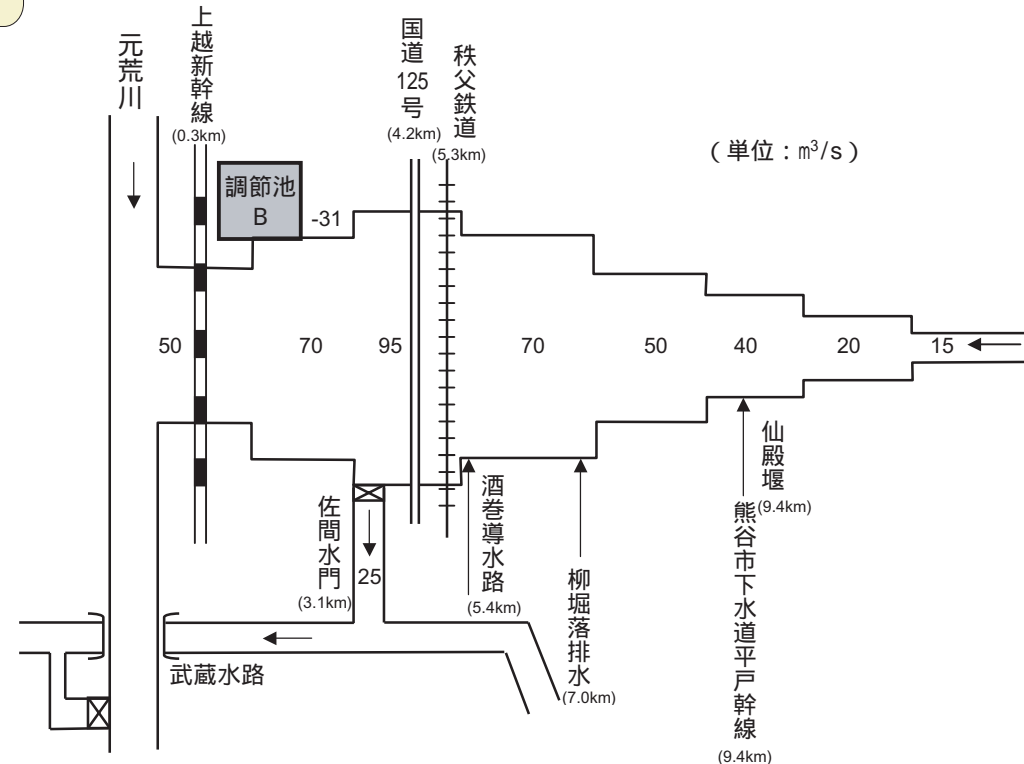
- ・忍川では、下記の区間において、整備目標流量を安全に流下させるため、現況の河道法線を基本として、河床を下げるとともに、河道の拡幅及び築堤により河積の拡大を図る。
 <整備予定区間> (元荒川合流点0.00 km) ~ (上流端11.52 km) A
- ・また、河道のピーク流量の低減を目的として、以下の施設を整備する。
 <設備予定施設> (調節池) B



整備上の留意点

- ・護岸整備にあたっては、水辺に生物が生息しやすい木材や石などの自然素材を利用するなど、自然にやさしい水辺づくりに努める。
- ・河床掘削においては、既存の淵・みお筋を極力活かした整備を行うよう努める。
- ・調節池の整備にあたっては、動植物の生息状況を把握し、必要に応じて現地表土の利用、回避・移植などの対策に努める。
- ・落差工の設置にあたっては、魚類等の移動を妨げない構造とするよう努める。

流量配分図



忍川3km 付近



忍川6km 付近



忍川整備平面図

S=1/50,000



施行区間(L=11.52km)

上流端 11.52km

7.5km付近

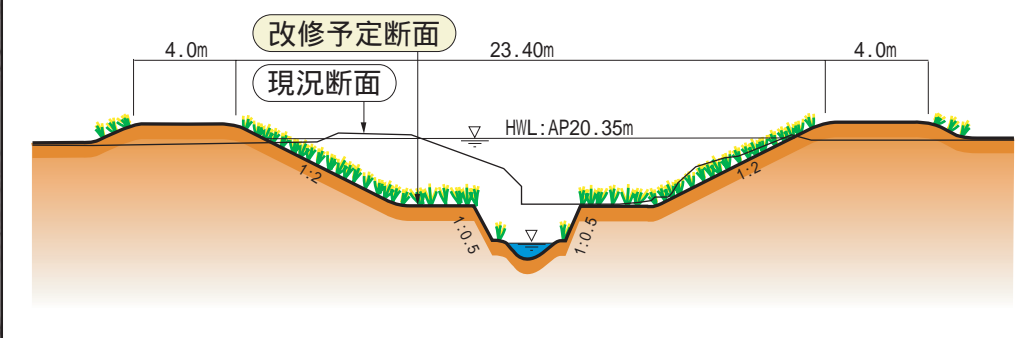
忍川

元荒川合流点 0.00km

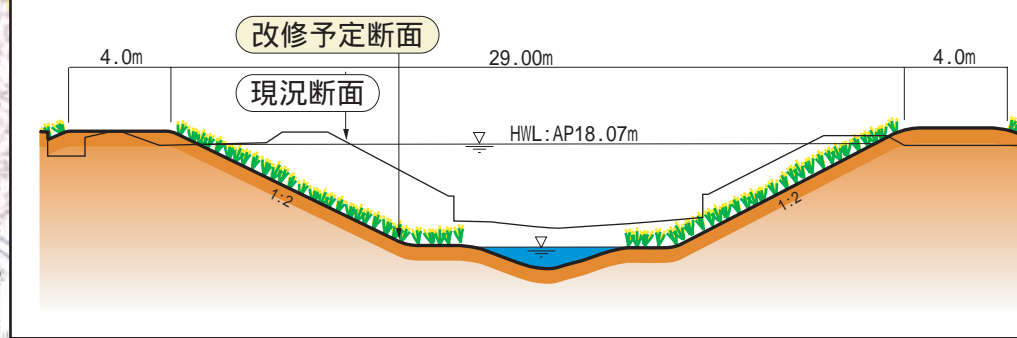
1.5km付近



施工箇所代表断面図(8.0km付近)

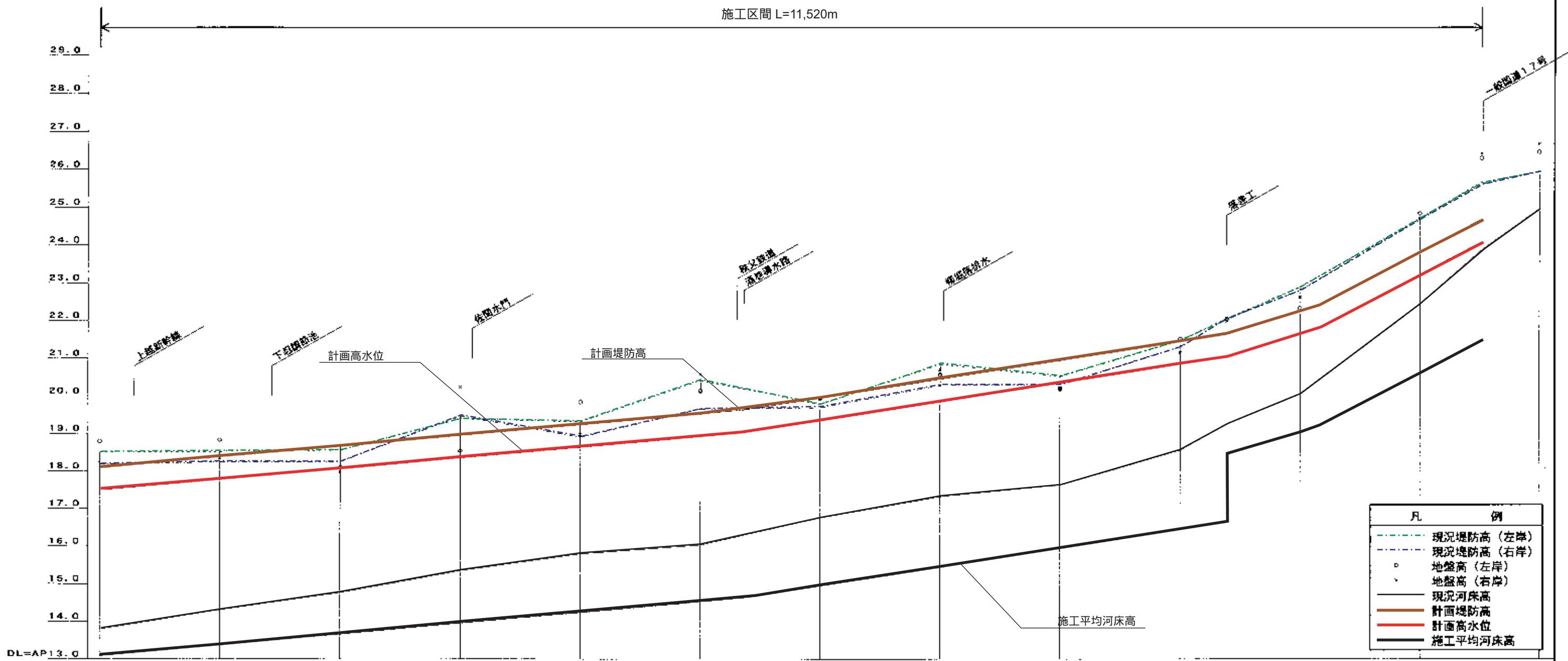


施工箇所代表断面図(2.0km付近)



忍川計画縦断面図

施工区間 L=11,520m



計画距離	水質勾配		河床勾配		堤防高	高水位	施工平均河床高
	左岸	右岸	左岸	右岸			
0.000k			1/3,500	1/3,500	18.10	17.50	13.10
1.000k					18.38	17.76	13.38
2.000k					18.57	18.07	13.67
3.000k					18.95	18.95	13.95
4.000k					19.24	18.64	14.24
5.000k					19.53	18.93	14.53
5.357k					19.63	19.03	14.63
6.000k					19.95	19.95	14.95
7.000k					20.45	19.45	15.45
8.000k					20.95	20.95	15.95
9.000k					21.45	20.45	16.45
9.350k					21.64	21.04	16.64 (18.44)
10.000k					22.25	21.55	19.05
10.160k					22.41	21.81	19.21
11.000k					23.81	23.21	20.61
11.520k					24.66	24.06	21.46

にいがたがわ

新方川・整備計画概要

流域面積 40.62 (35.25) km² 裸書きは支川を含んだ面積、()書きは支川を含まない面積
 流路延長 10.860 km
 合流河川 中川
 現況河床勾配 1/3,000
 関係市町村 岩槻市、春日部市、越谷市、吉川市

流域および河川の概要

- ・新方川は、埼玉県の春日部市と岩槻市の行政界付近にその源を発し、途中安之堀川・会之堀川・平新川・御料堀を合流し、中川の国の管理区間右岸に合流する一級河川である。
- ・新方川では、昭和57年の台風18号、昭和61年の台風10号洪水時に、弥栄町地先において多大な溢水被害が生じたため、河川激甚災害対策特別緊急事業において、中川合流点(0.00 km)から国道4号バイパス(6.90 km)までの改修が行われた。
- ・流域は、元荒川・大落古利根川の自然堤防に囲まれた長方形の形状を示しており、その約半分が市街化区域に指定される標高3~8mの皿状をした沖積低地となっている。
- ・このため、保水・遊水機能の高い水田・畑地の減少や宅地造成・盛土等による流出機構の変化から、河道の洪水流出量が増加しており、また流域中流部の新興住宅地周辺では、昭和40年代から昭和50年代にかけ、地盤沈下が進行した事もあり、流域内に内水地域が増大し、洪水被害が増加している。

治水計画

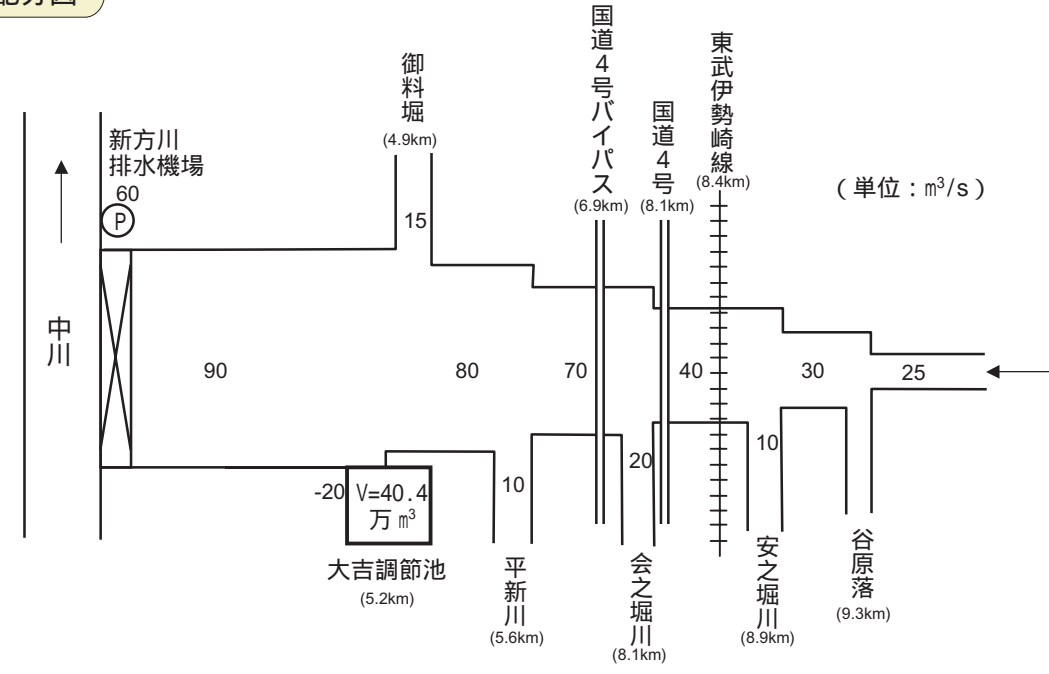
- ・平成14年現在でみると中川合流点(0.0 km)から会之堀川合流点下流部までは、H.W.L 堤ではほぼ暫定完成している。
 - ・そのため、新方川では、上記区間で一部余裕高不足を解消するため堤防嵩上げを行う。また、その上流区間では、整備目標流量を安全に流下させるため、現況の河道法線を基本として河床を下げるるとともに、河道の拡幅及び築堤により河積の拡大を図る。
- <整備予定区間> (中川合流点0.00 km) ~ (上流端10.86 km) A



整備上の留意点

- ・護岸整備にあたっては、水辺に生物が生息しやすい木材や石などの自然素材を利用するなど、自然にやさしい水辺づくりに努める。
- ・河床掘削においては、既存の淵・みお筋を極力活かした整備を行うよう努める。
- ・落差工の設置にあたっては、魚類等の移動を妨げない構造とするよう努める。
- ・新方川の川岸のヨシ自生地には、埼玉県のレッドデータブックに記載されているクイナ、パンの生息がみられる地域があるので、整備にあたっては十分配慮する。

流量配分図



新方川3km 付近

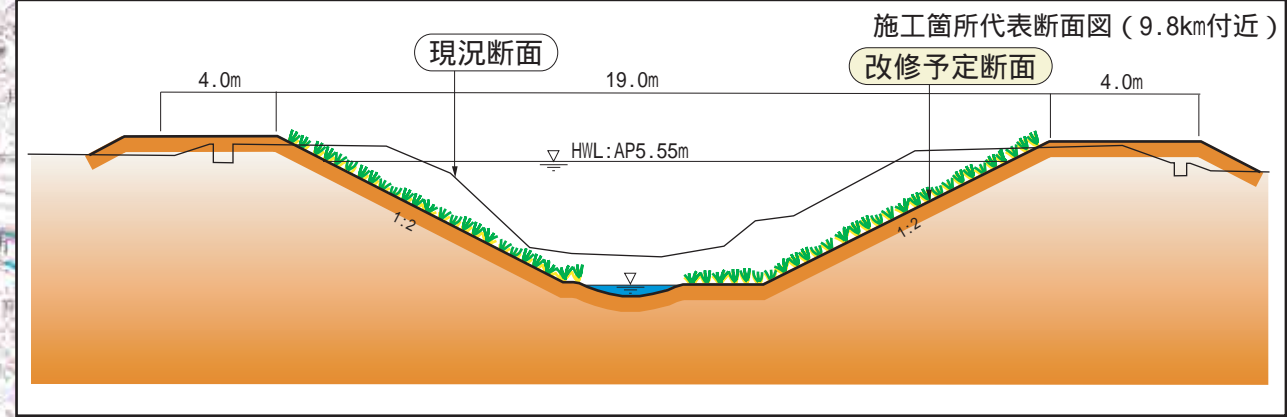
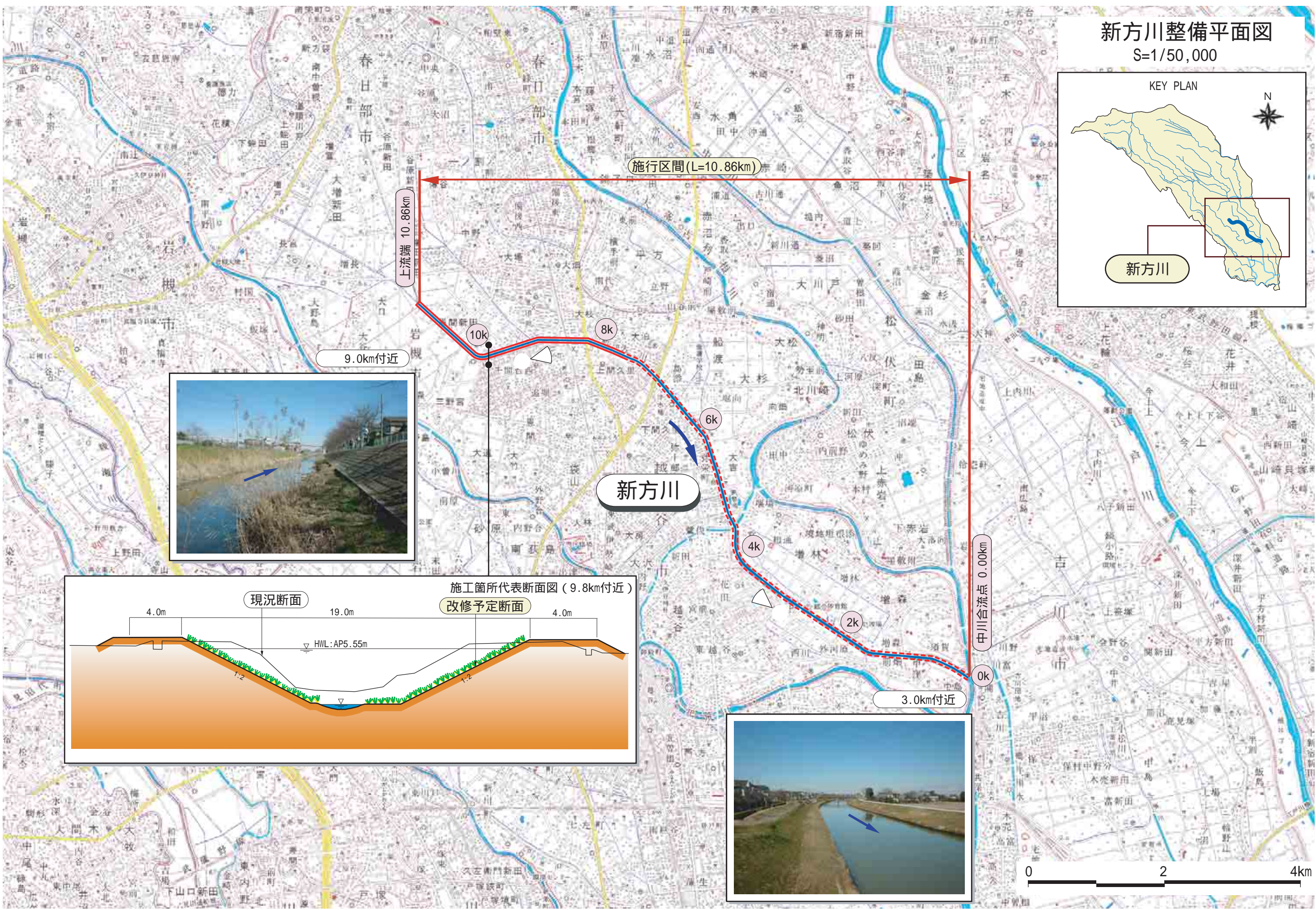
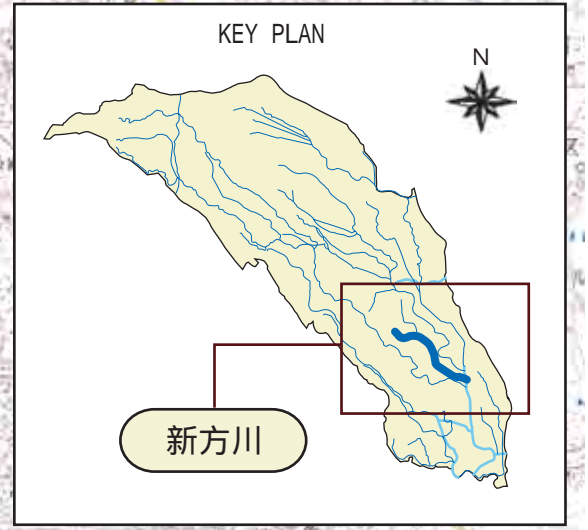


新方川8km 付近



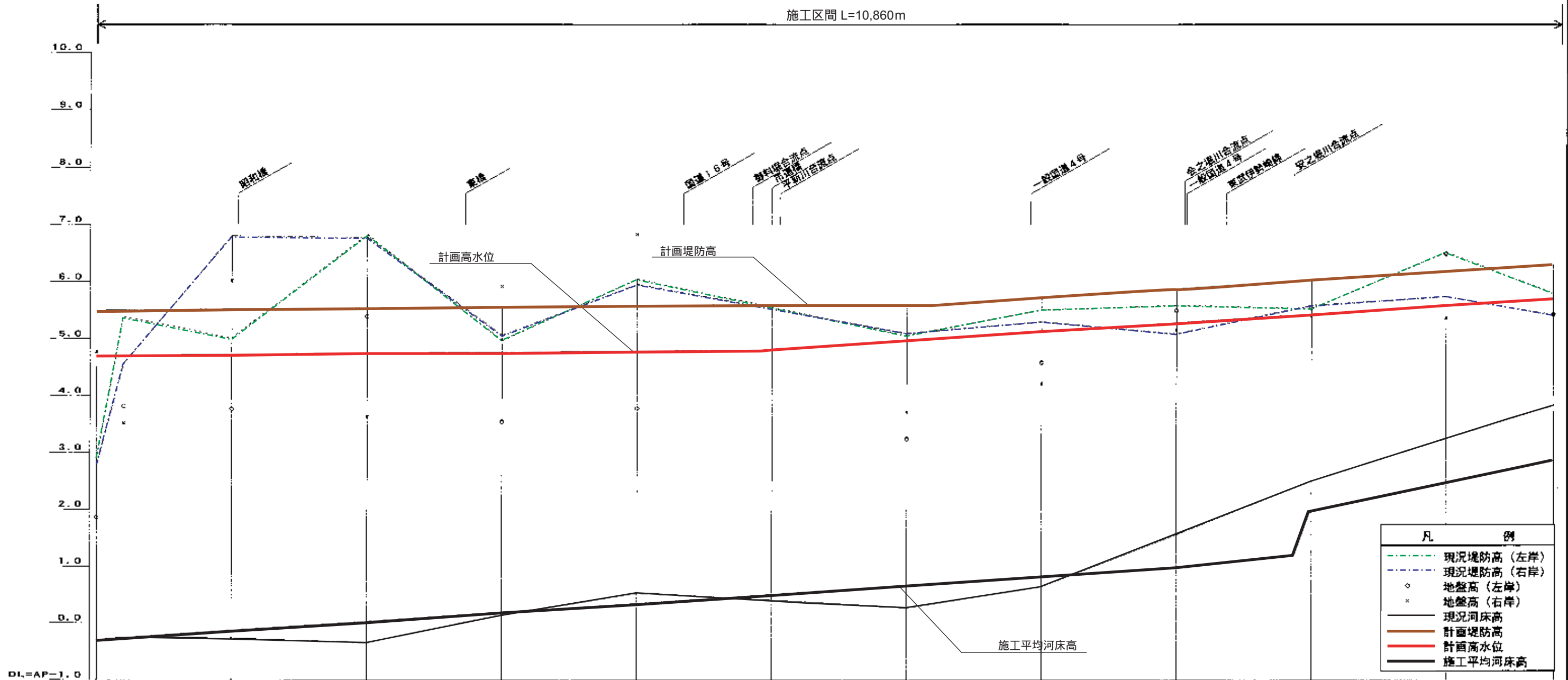
新方川整備平面図

S=1/50,000



新方川計画縦断面図

施工区間 L=10,860m



DL=AP-1.0

追加距離	水面勾配		河床勾配		Level	
	1/48,000	1/6,500	1/6,500	1/6,500	1/6,500	1/6,500
0.000k	5.50	5.50	4.70	-0.30	5.50	5.50
0.200k	5.50	5.50	4.70	-0.23	5.50	5.50
1.000k	5.52	5.52	4.72	-0.11	5.52	5.52
2.000k	5.54	5.54	4.74	0.05	5.54	5.54
3.000k	5.56	5.56	4.76	0.20	5.56	5.56
4.000k	5.58	5.58	4.78	0.36	5.58	5.58
4.625k	5.60	5.60	4.80	0.51	5.60	5.60
4.875k	5.60	5.60	4.80	0.51	5.60	5.60
5.000k	5.60	5.60	4.82	0.51	5.60	5.60
6.000k	5.60	5.60	4.97	0.65	5.60	5.60
6.175k	5.60	5.60	4.97	0.65	5.60	5.60
7.000k	5.72	5.72	5.12	0.82	5.72	5.72
8.000k	6.00	6.00	5.28	0.97	6.00	6.00
8.200k	6.00	6.00	5.28	0.97	6.00	6.00
8.370k	6.03	6.03	5.43	1.18	6.03	6.03
8.600k	6.03	6.03	5.43	1.18	6.03	6.03
10.000k	6.19	6.19	5.59	2.46	6.19	6.19
10.800k	6.31	6.31	5.71	2.86	6.31	6.31

あいのほりがわ

流域面積 5.37 km²
 流路延長 4.500 km
 合流河川 新方川
 現況河床勾配 1/1,500
 関係市町村 春日部市

流域および河川の概要

- ・会之堀川は、埼玉県春日部市に源を発し、新方川8.1km 付近の左岸に合流する一級河川である。
- ・会之堀川は、かつては農業用排水路として利用されており、その当時の流域の大部分は水田であったが、その後当流域は首都東京に近い地理的条件により急激に都市化が進み、現在では上中流部の一部に水田を残すのみで、下流部では家屋が密集した状況となっている。
- ・流域は、従来の荒川、利根川の氾濫原であり、地勢勾配が極めて緩く、また、東京都を含む県南地域の地盤沈下現象がこれに加わり、著しく治水安全度が低下しているため、小規模な降雨でも浸水被害が発生し、最近では昭和61年、平成3年、平成5年と連続して水害を被っている。

治水計画

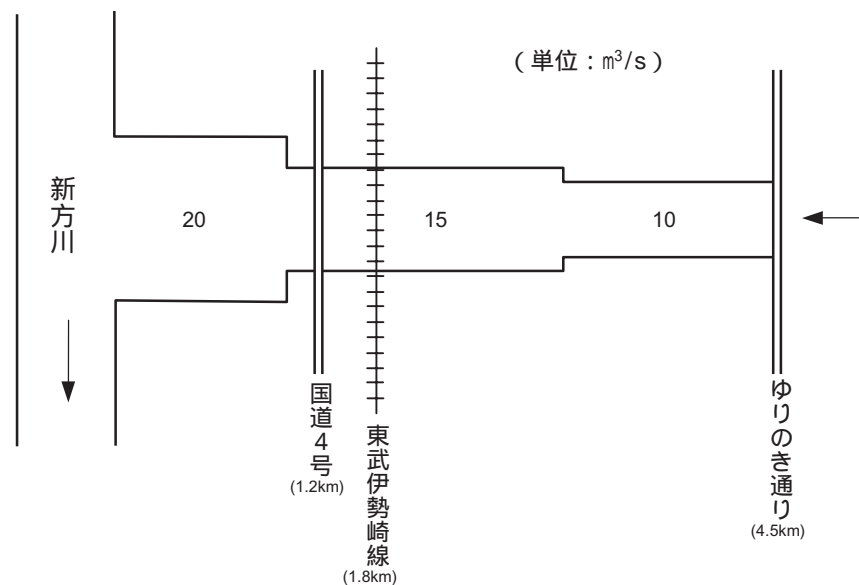
- ・会之堀川では、下記の区間において、整備目標流量を安全に流下させるため、現況の河道法線を基本として、河床を下げるとともに、河道の拡幅及び築堤により河積の拡大を図る。
 <整備予定区間> (新方川合流点0.00 km) ~ (会之堀橋下流0.75 km) A



整備上の留意点

- ・護岸整備にあたっては、水辺に生物が生息しやすい木材や石などの自然素材を利用するなど、自然にやさしい水辺づくりに努める。
- ・河床掘削においては、既存の淵・みお筋を極力活かした整備を行うよう努める。
- ・落差工の設置にあたっては、魚類等の移動を妨げない構造とするよう努める。

流量配分図



会之堀川・整備計画概要



会之堀川1km 付近



会之堀川3km 付近



会之堀川整備平面図
S=1/25,000



3.0km付近



0.5km付近



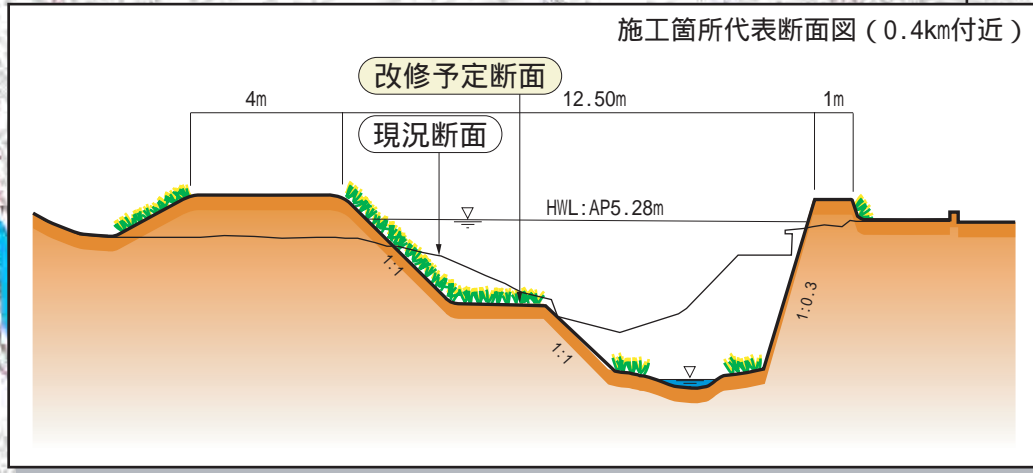
会之堀川

会之堀橋下流 0.75km

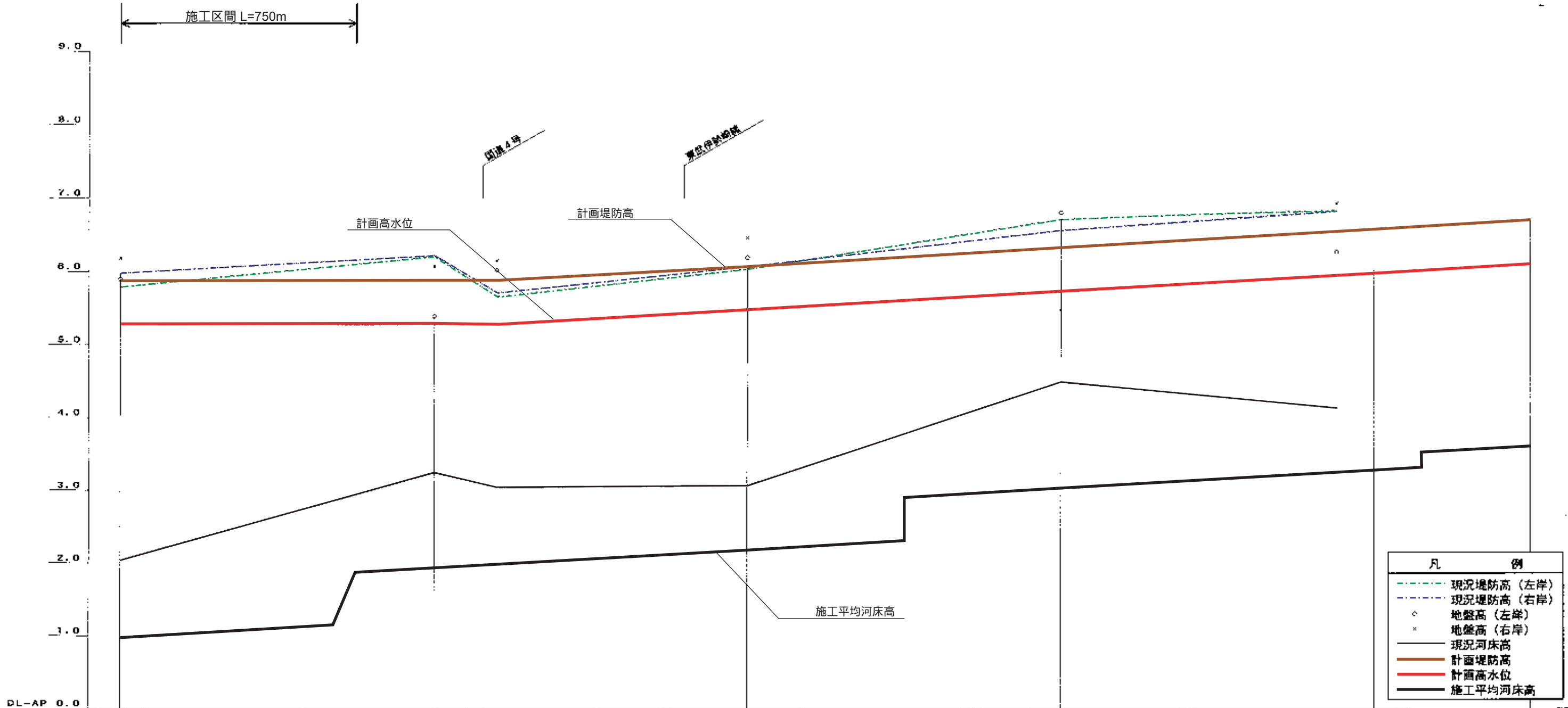
施行区間(L=0.75km)

新方川合流点 0.00km

施工箇所代表断面図(0.4km付近)



会之堀川計画縦断面図



凡 例	
--- (green dashed)	現況堤防高 (左岸)
--- (blue dashed)	現況堤防高 (右岸)
◇	地盤高 (左岸)
*	地盤高 (右岸)
— (solid black)	現況河床高
— (solid brown)	計画堤防高
— (solid red)	計画高水位
— (solid black, stepped)	施工平均河床高

追加距離	水面勾配		河床勾配		堤防高	高水位	施工平均河床高
	Level	1/4,000	1/4,000	1/100			
0.000k					5.85	5.25	0.95
0.575k							1.15
0.750k							1.87
1.000k					5.85	5.25	1.93
1.200k					5.85	5.25	1.95
2.000k					6.05	5.45	2.15
2.500k					6.21	5.61	2.31 (2.91)
3.000k					6.33	5.73	3.03
4.000k					6.55	5.95	3.28
4.150k					6.52	5.92	3.32 (3.52)
4.500k					6.71	6.11	3.61

おおとしふるとねがわ

流域面積 18 2.28 (36 82) km² 裸書きは支川を含んだ面積、()書きは支川を含まない面積
 流路延長 26.700 km
 合流河川 中川
 現況河床勾配 1/6,000
 関係市町村 久喜市、鷲宮町、幸手市、杉戸町、宮代町、春日部市、松伏町、越谷市、(加須市、騎西町、菖蒲町、白岡町、蓮田市、岩槻市) ()書きは支川の関係市町村

流域および河川の概要

- ・大落古利根川は、埼玉県加須市にその源を発し、途中青毛堀川、備前前堀川、備前堀川、姫宮落川、隼人堀川、古隅田川を合流し、中川の国の管理区間右岸に合流する一級河川である。
- ・大落古利根川は利根川の旧流路であり、数多くの落し(農業用排水路)が合流するため、延長の割に流域面積が大きいという特徴がある。
- ・河道の大部分は、主に葛西用水の送水路として使われてきたが、最近の社会環境の変化により、工場・家庭用水の流入量が増大し、都市河川の性格を強めてきている。

治水計画

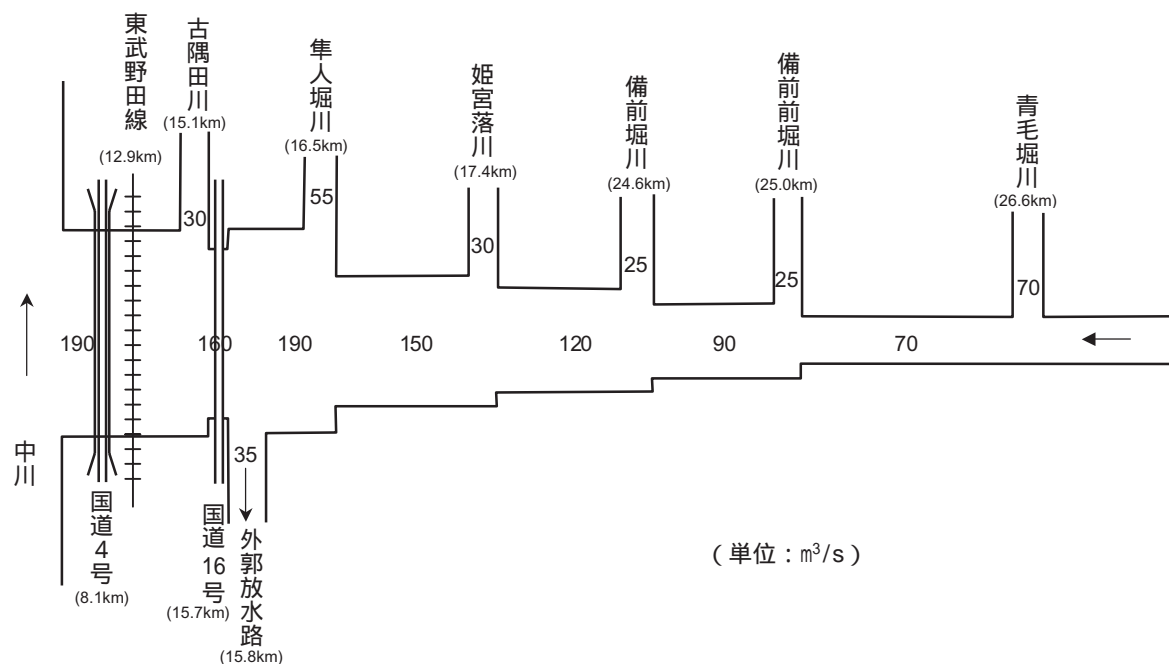
- ・大落古利根川は河積が大きく、比較的現況流下能力があることから、中川合流点～上流端の間で、流下能力が不足する箇所において、整備目標流量を安全に流下させるため、築堤等により、河積の拡大を図る。
- <整備予定区間> (中川合流点0.00 km) ~ (上流端26.80 km) A



整備上の留意点

- ・築堤に伴う護岸整備にあたっては、周辺の景観との調和、動植物の生息・生育環境に配慮し、自然にやさしい水辺づくりに努める。
- ・改修にあたっては、動植物相に富んだ河川の特性を生かし、動植物の生息環境及び生育環境に配慮し、多自然護岸など自然にやさしい水辺づくりに努める。また、周辺環境と調和し、良好な自然環境を現状で有している区域については、ワンドなどの整備を含めた、生物の移動回廊としての機能の保全に努める。
- ・大落古利根川の水辺には埼玉県のレッドデータブックに記載されているキタミソウやノウルシの生育がみられる地域があるので、整備にあたっては十分配慮する。

流量配分図



大落古利根川・整備計画概要



大落古利根川6km 付近

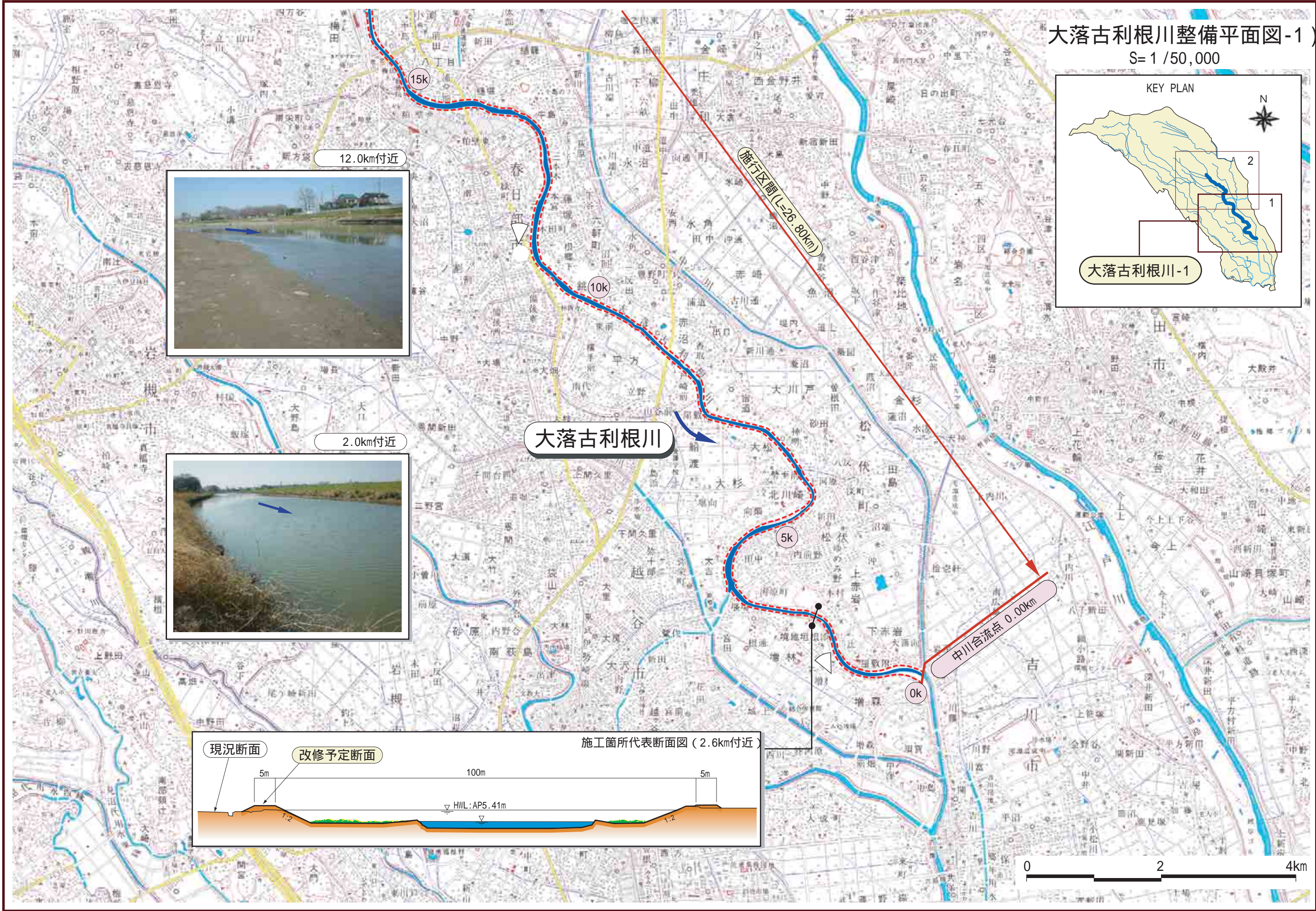
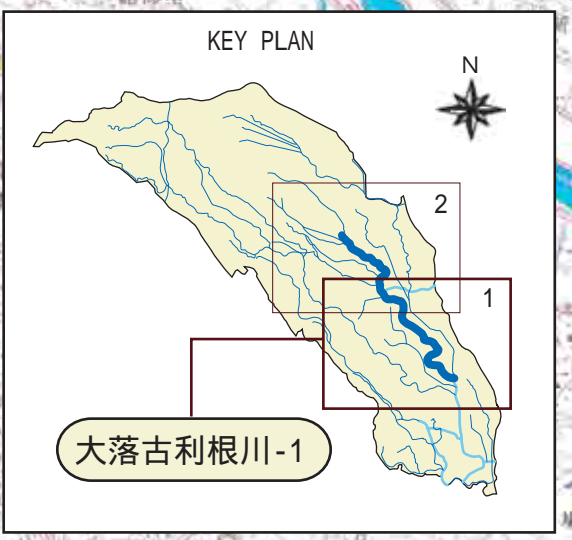


大落古利根川18km 付近



大落古利根川整備平面図-1)

S= 1 / 50,000



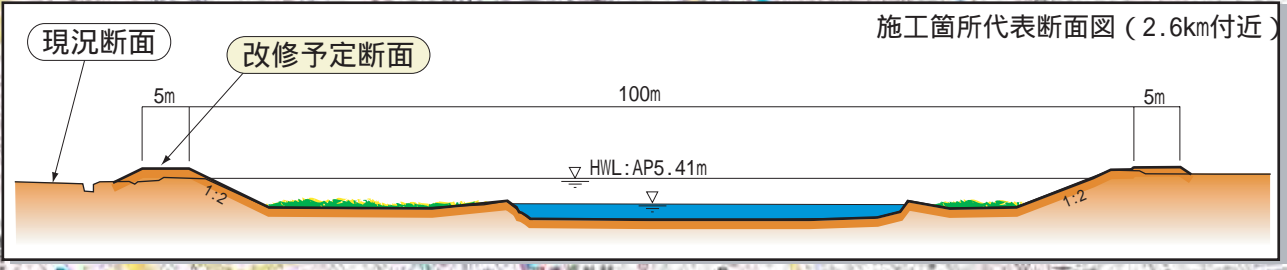
大落古利根川



12.0km付近

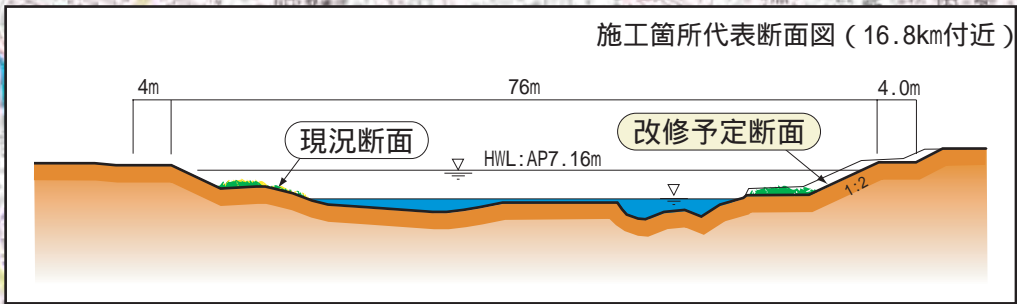
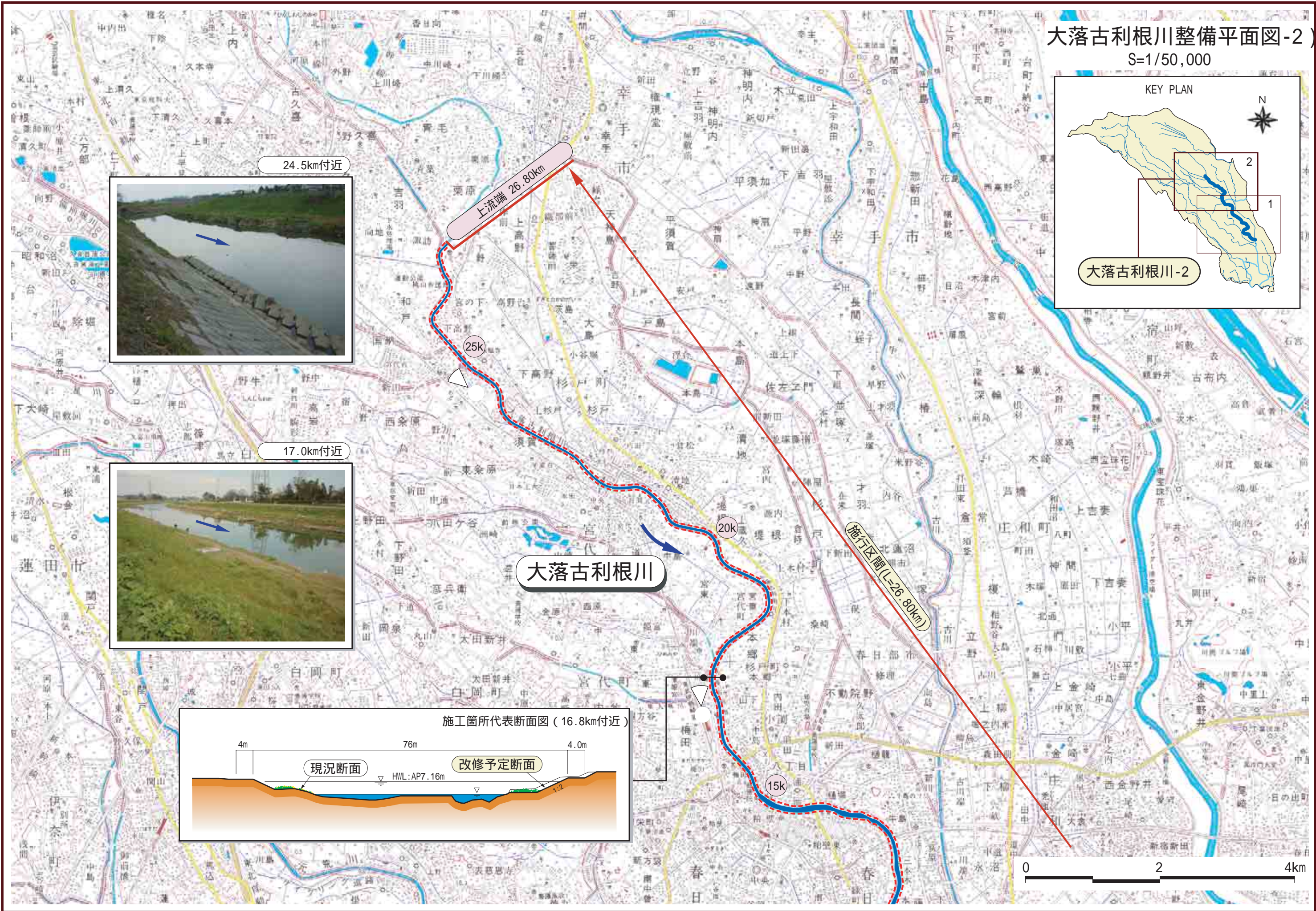


2.0km付近



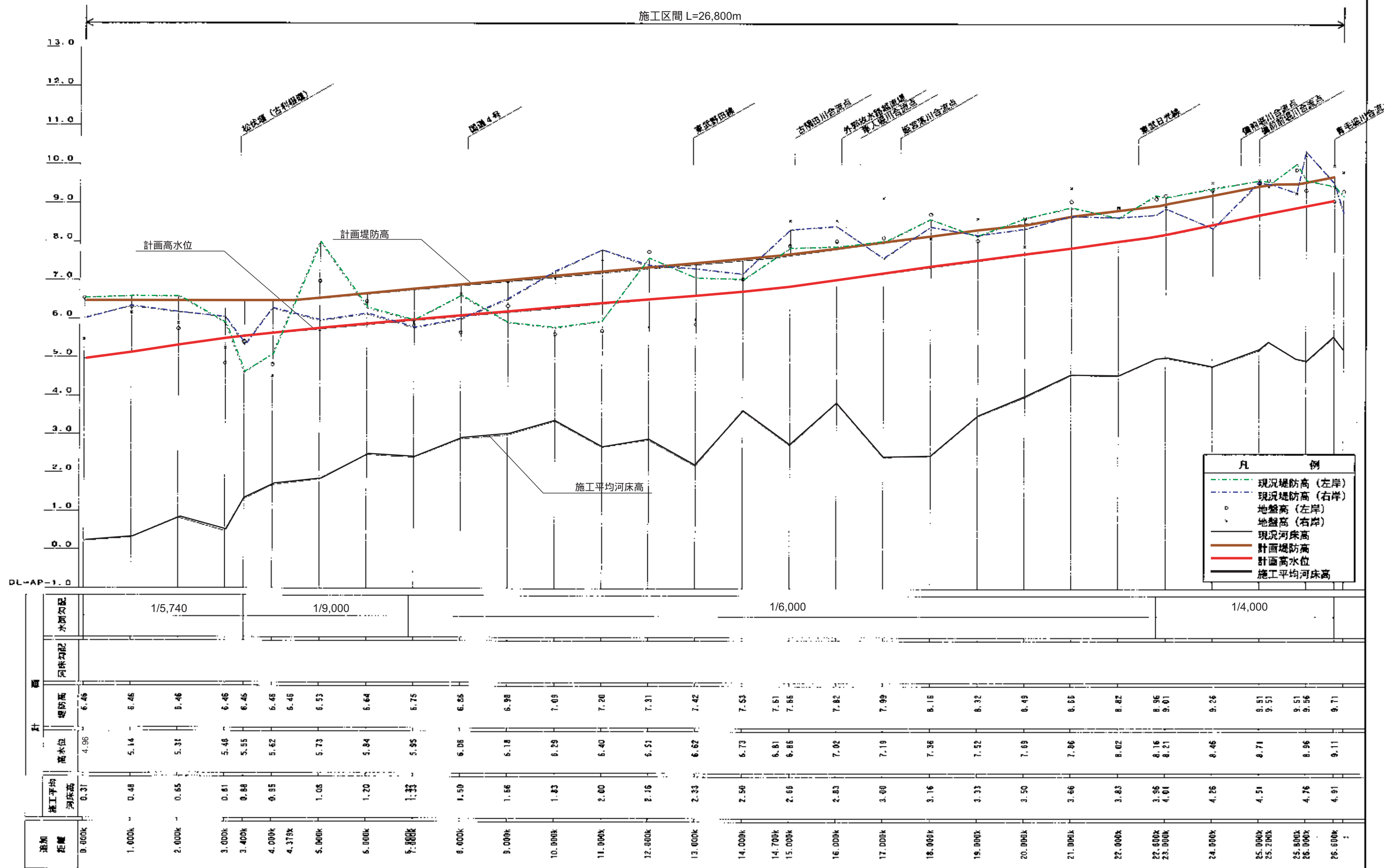
施工箇所代表断面図 (2.6km付近)

大落古利根川整備平面図-2)
S=1/50,000



大落古利根川計画縦断図

施工区間 L=26,800m



ふるすみだがわ

流域面積 14.00 km²
 流路延長 4.800 km
 合流河川 大落古利根川
 現況河床勾配 1/2,500
 関係市町村 白岡町、岩槻市、春日部市

流域および河川の概要

- 古隅田川は、埼玉県岩槻市にその源を發し、途中旧古隅田川、上院落を合流し、大落古利根川15.1 km 付近の右岸に合流する一級河川である。
- 流域は、台地および自然堤防等の比較的地形の高い地域が流域全体の約6割を占めているが、市街化区域は東武鉄道（野田線、伊勢崎線）沿いに広がっており、この地域は氾濫平野が主となっている。

治水計画

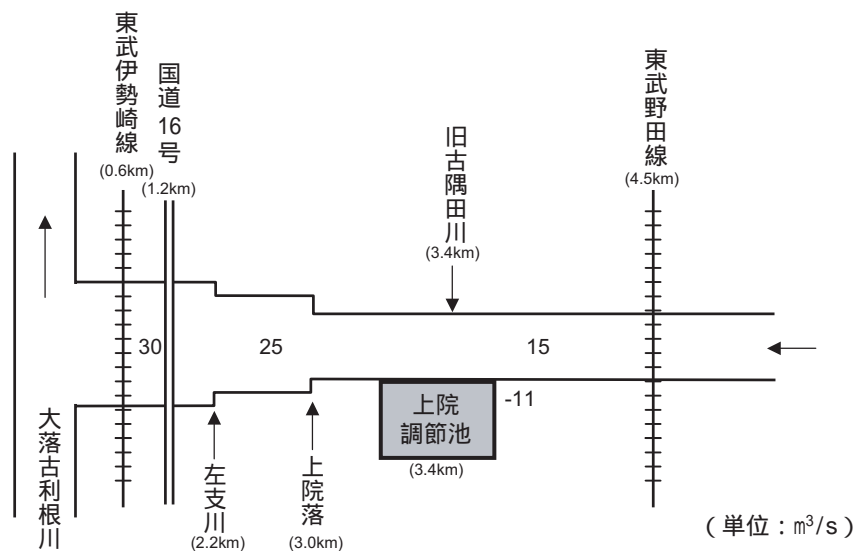
- 古隅田川では、下記の区間において、整備目標流量を安全に流下させるため、現況の河道法線を基本として、河床を下げるとともに、河道の拡幅及び築堤により河積の拡大を図る。
 <整備予定区間>（大落古利根川合流点0.00 km）～（上流端4.80 km）…………… A
- また、河道のピーク流量の低減を目的として、以下の施設を整備する。
 <整備予定施設>（上院調節池）…………… B



整備上の留意点

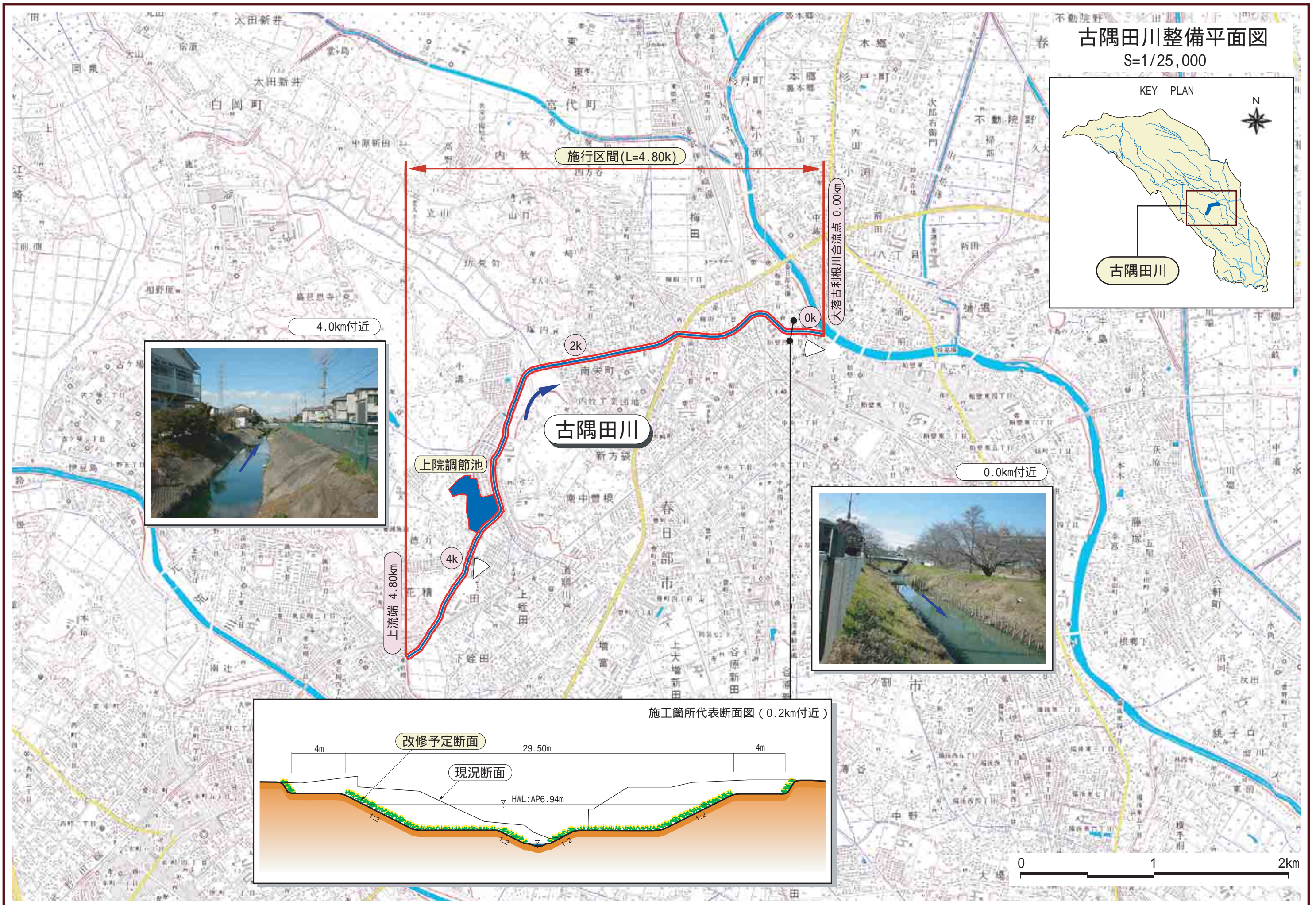
- 護岸整備にあたっては、水辺に生物が生息しやすい木材や石などの自然素材を利用するなど、自然にやさしい水辺づくりに努める。
- 河床掘削においては、既存の淵・みお筋を極力活かした整備を行うよう努める。
- 調節池の整備にあたっては、動植物の生息状況を把握し、必要に応じて現地表土の利用、回避・移植などの対策に努める。

流量配分図



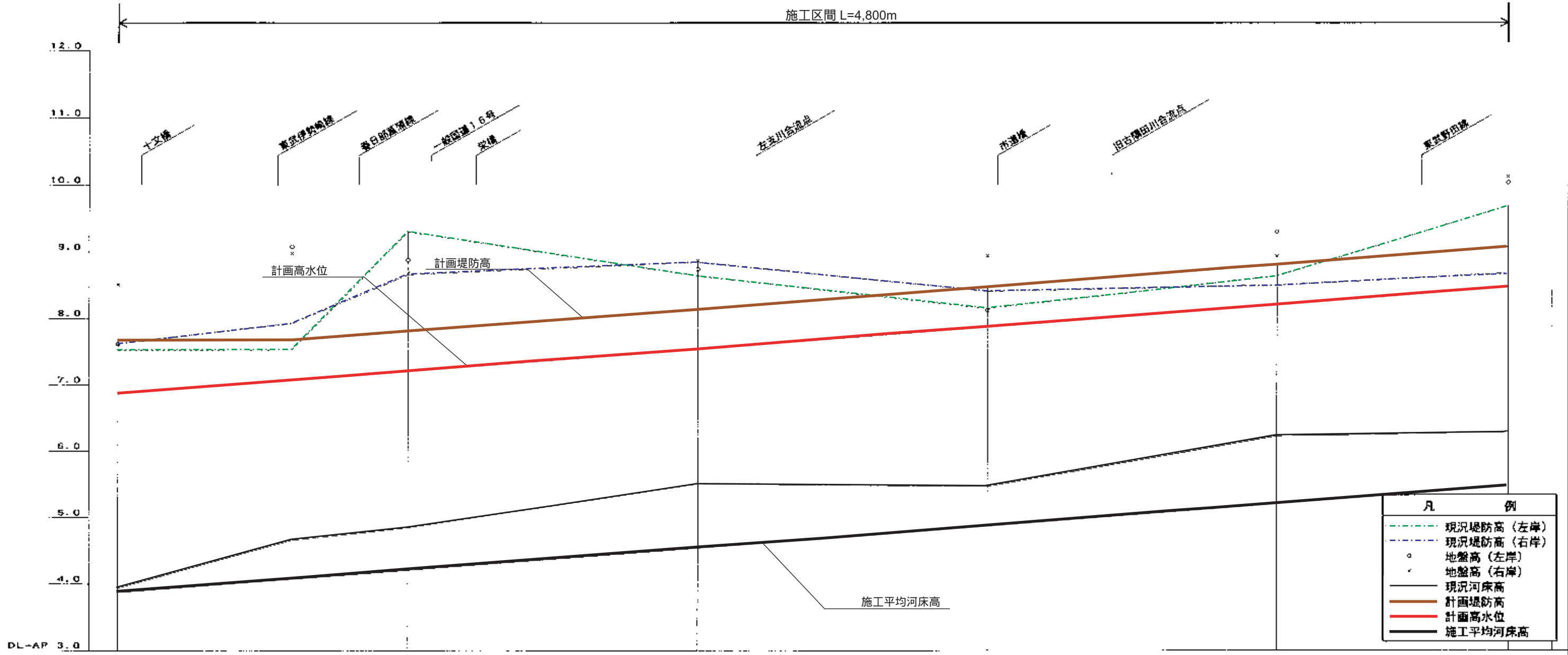
古隅田川・整備計画概要





古隅田川計画縦断面図

施工区間 L=4,800m



追加距離	計画				
	0.000k	0.600k	1.000k	2.000k	3.000k
堤防高	7.88	7.68	7.61	8.14	8.48
高水位	6.88		7.21	7.54	7.88
施工平均河床高	3.88		4.21	4.54	4.88
追加距離	0.000k	0.600k	1.000k	2.000k	3.000k
					4.000k
					4.800k

はやとほりがわ

隼人堀川・整備計画概要

流域面積 42.48 (31.47) km² 裸書きは支川を含んだ面積、()書きは支川を含まない面積
 流路延長 14.187 km
 合流河川 大落古利根川
 現況河床勾配 1/2,500
 関係市町村 菫蒲町、宮代町、白岡町、蓮田市、岩槻市、春日部市、(久喜市) ()書きは支川の関係市町村

流域および河川の概要

- ・隼人堀川は、埼玉県菫蒲町にその源を発し、途中沼落堀、庄兵衛堀川、三ヶ村落堀、新堀を合流し大落古利根川の16.5 km 付近の右岸に合流する一級河川である。
- ・流域は、農業地域として発達した地域であったが、立地条件の良さから、昭和35年頃より都市化が進展するとともに、最近では市街化の急増に加えて、工業団地も建設され、増々大規模な開発が計画されており。そのため、中小の出水でも湛水被害が発生している。

治水計画

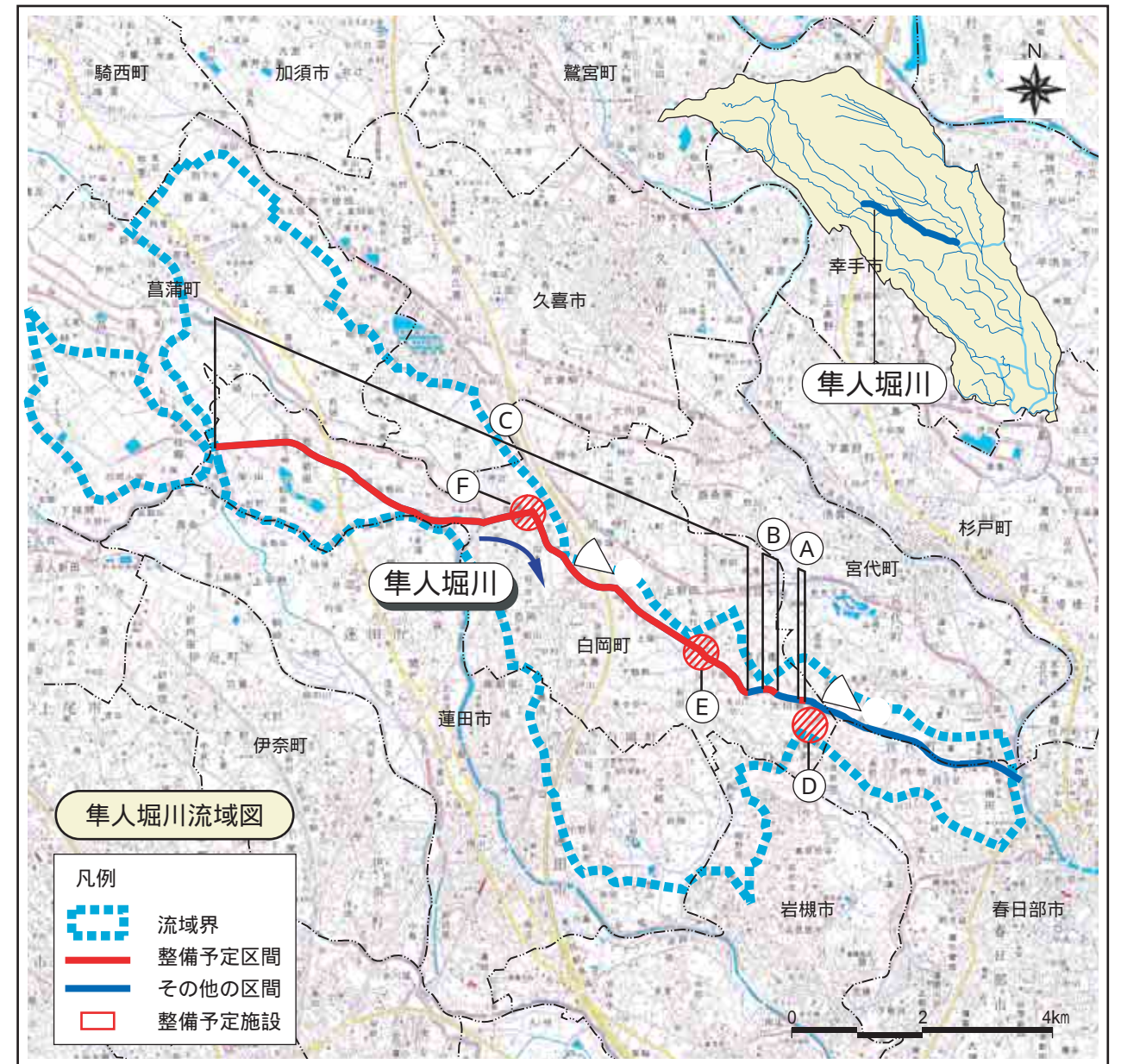
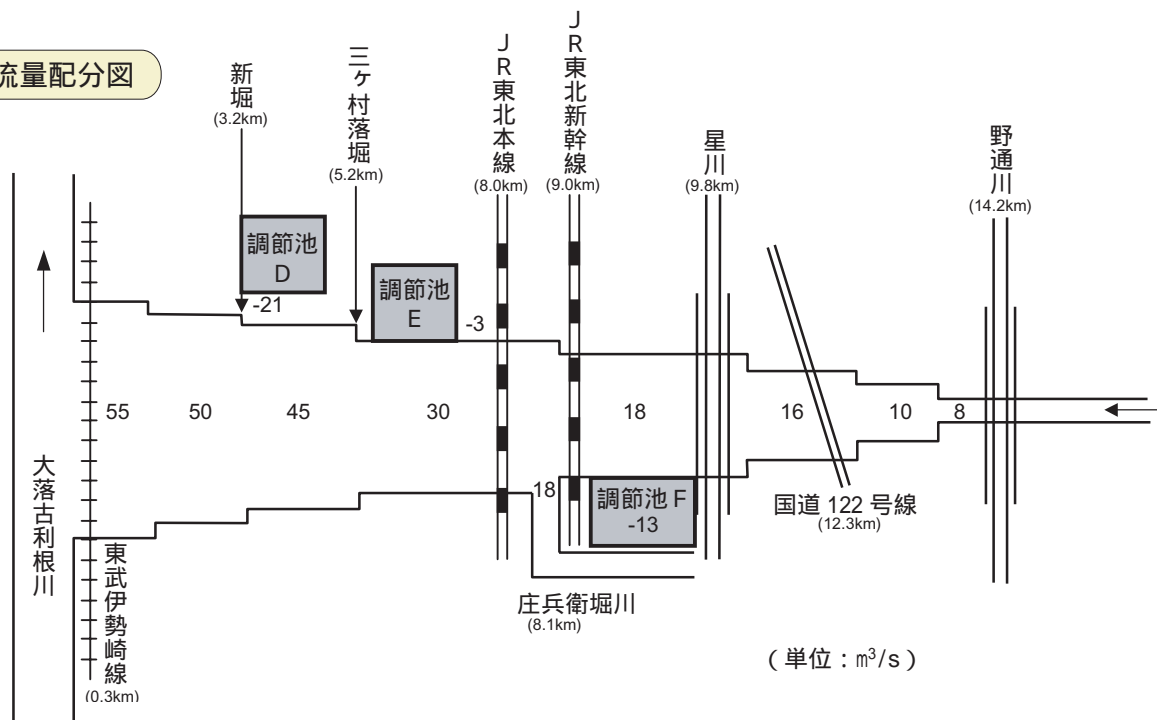
- ・隼人堀川では、整備目標流量を安全に流下させるため、下記の区間において、現況の河道法線を基本として、河床を下げるとともに、河道の拡幅及び築堤により河積の拡大を図る。
 - <整備予定区間> (海老島橋下流3.35 km) ~ (海老島橋上流3.45 km) A
 - (白岡町太田新井地先3.87 km) ~ (六兵衛橋下流4.10 km) B
 - (六兵衛橋上流4.20 km) ~ (上流端14.19 km) C
- ・また、河道のピーク流量の低減を目的として、以下の施設を整備する。
 - <整備予定施設> (調節池) D
 - (調節池) E
 - (調節池) F



整備上の留意点

- ・護岸整備にあたっては、水辺に生物が生息しやすい木材や石などの自然素材を利用するなど、自然にやさしい水辺づくりに努める。
- ・河床掘削においては、既存の淵・みお筋を極力活かした整備を行うよう努める。
- ・調節池の整備にあたっては、動植物の生息状況を把握し、必要に応じて現地表土の利用、回避・移植などの対策に努める。

流量配分図



隼人堀川3km 付近

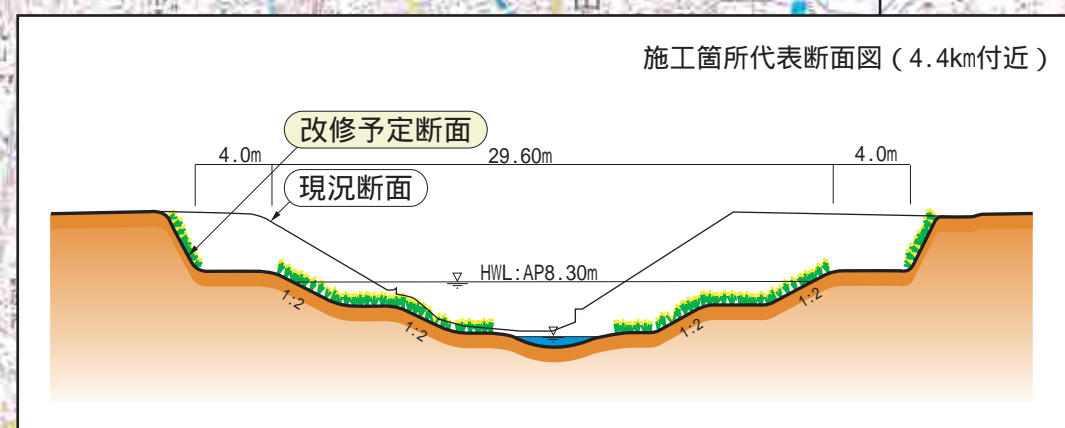
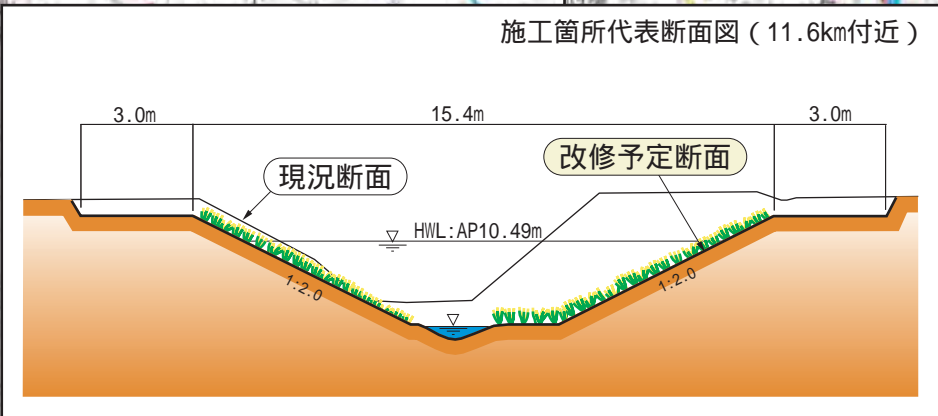
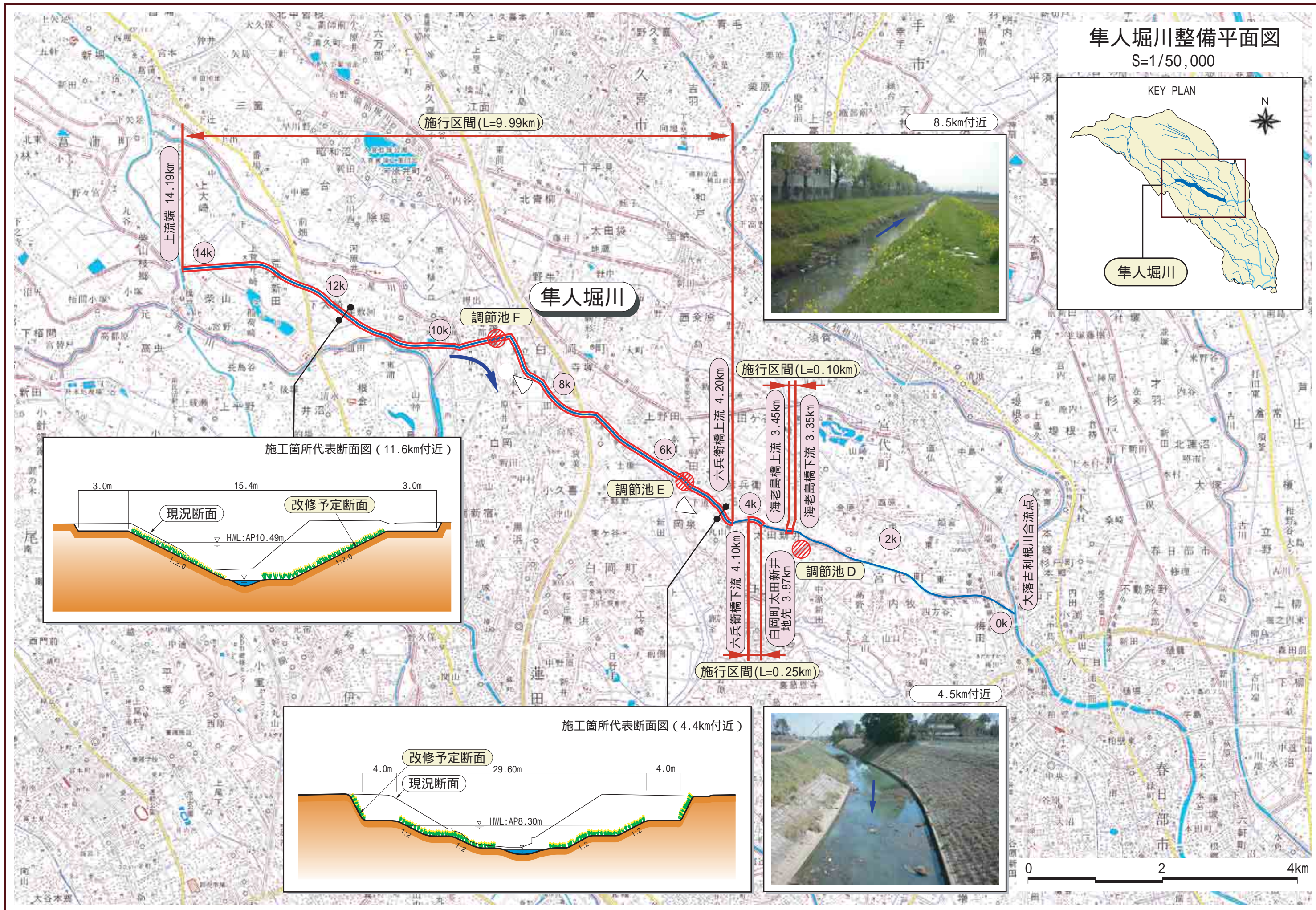
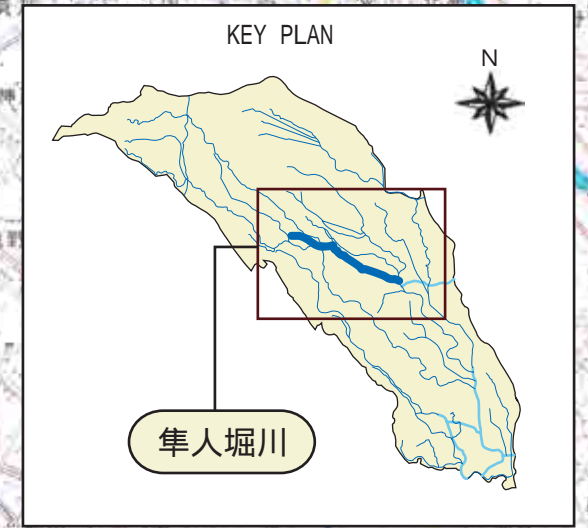


隼人堀川8km 付近

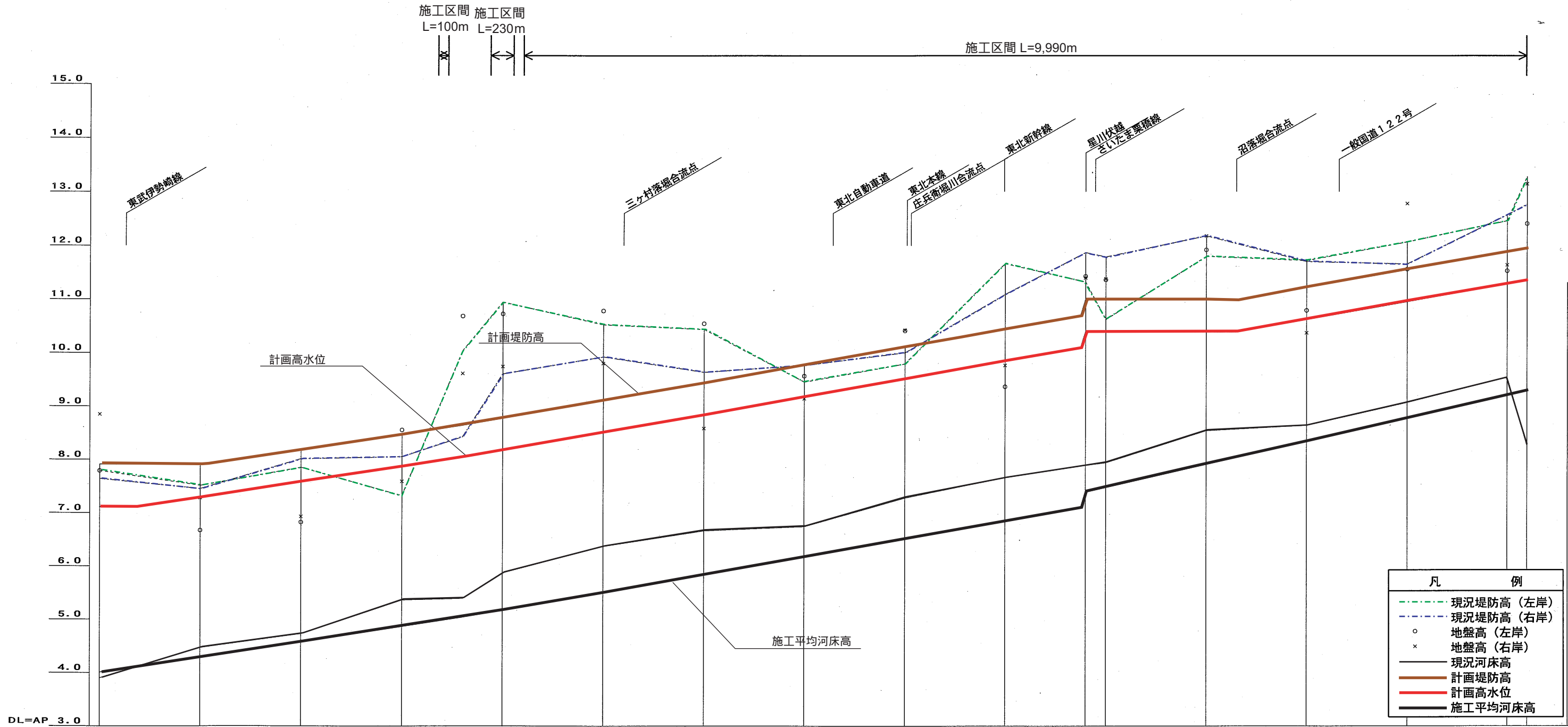


隼人堀川整備平面図

S=1/50,000



隼人堀川計画縦断図



DL=AP 3.0

追加距離	計画																				
	0.000k	0.350k	1.098k	2.000k	3.000k	3.600k	4.000k	5.000k	6.000k	7.000k	8.000k	9.000k	9.750k	10.000k	11.000k	11.300k	12.000k	13.000k	14.000k	14.200k	
施工平均河床高	4.01		4.31	4.58	4.87	5.04	5.17	5.50	5.84	6.17	6.50	6.84	7.99	7.48	7.91		8.35	8.78		9.22	9.30
高水位	7.11	7.11	7.31	7.58	7.87	8.04	8.17	8.50	8.84	9.17	9.50	9.84	10.99	10.39	10.39		10.62	10.96		11.29	11.35
堤防高	7.91		7.91	8.18	8.47	8.64	8.77	9.10	9.44	9.77	10.10	10.44	10.99	10.99	10.99		11.22	11.56		11.89	11.95
河床勾配	1/3,500														1/3,000						
水面勾配	Level														Level						